体育教師としての感性をさます



（財）日本ハンドボール協会参事・学校体育ハンドボール検討専門委員会委員長　佐藤　靖

「子どもが最初にハンドボールに触れる場を提供できるのは小学校の体育授業です。教科体育へのハンドボールの確かな位置づけが普及・発展の基盤になります」。勝敗に拘泥した部活動指導に明け暮れ、鈍っていた体育教師としての私の感性は、まさにこの言葉によって覚醒したようです。学校体育とは、学校という教育機関の責任のもとで、児童や生徒そして学生を対象に、意図的、計画的に行われる体育のことです。それゆえ小、中、高、大を問わず、体育教師としての責任があるわけです。平成７年、冒頭の言葉のように、（財）日本ハンドボール協会前専務理事、大西武三先生の先見の明があって、学校体育における教科体育に関する諸問題に対応するために、（財）日本ハンドボール協会指導・普及部会のなかに専門委員会が設立されました。確かに学校では、正課の活動としての教科体育や体育行事等が中心となり、それらが課外の活動としての部活動と相互に関連を保ちながら、それぞれの立場で人間形成や生涯スポーツという側面から体育全体に寄与しています。しかもわが国のスポーツの普及・発展は、この学校体育の充実が引き金となって社会体育に繋がっていくという構造に支えられています。したがって、とりわけ教科体育でしっかりとした内容を子どもに習得させる意義は非常に大きいといえます。

これまで、大西先生、そして（財）日本ハンドボール協会常務理事、角紘昭先生のご指導のもと、本委員会が中心となり、ハンドボール研究集会の開催、「ハンドボール研究」の刊行、実践研究推進校の選定、学習指導要領改訂期における文科省への対応等、幾つかの活動を継続的に手がけてきました。これらの活動の成果も追い風となったのか、小学校におけるハンドボールの授業実践はずいぶん各地域に浸透してきたようです。それはこれまでの研究集会における全国からの60題以上におよぶ実践報告等が示す通りです。そこで、私が委員会活動を通して学んできたことを基に、普及について、体育教師の在り方という側面から提言したいと思います。

１．ハンドボールの教材としての良さを分かる

自分が専門とする種目の教材価値を知っておくべきでしょう。今年の３月に改訂告示された小学校新学習指導要領では、第５・６学年のボール運動が現行の種目の列挙を改め、「ゴール型」、「ネット型」、「ベースボール型」の３つに分類され、主として取り扱う種目に替えて「それぞれの型に応じたハンドボールなどのその他のボール運動」も選択できるようになりました。今回の改訂では、分類視点は幾分不明瞭ではありますが、ある程度、種目を超えて種目を評価できるようになりました。「ゴール型」に属するハンドボールは、ラリーが難しい「ネット型」のバレーボールと較べてパスが繋がります。さらに同類のバスケットボールやサッカーと較べても、得点場面を多く作り出せるだけでなく、ボールを思い切り投げることができます。すなわちハンドボールは、ボール操作が容易なため、戦術学習に向いているので、「ゴール型」の典型教材といえます。

２．自ら良い授業を求める

その時々に、自分の足場とするべき授業を反省してみましょう。「子どもは何を望んでいるのか」、「子どもに何を身につけさせると運動が上手になり、好きになるのか」、「そのために教師にはどのような能力が求められるのか」等、良い授業を求めて模索するのが良いと思います。その際、発育・発達の著しい子どもたちと日々真剣に向き合っている小学校教師の授業づくりや教材づくりに目を向けてみましょう。そこには運動の苦手な子どもの指導法はもとより、一貫指導体系を確立するための糸口が凝縮されているのに驚かされます。

３．自ら社会に開かれる

部活動に本当の情熱をもっている指導者であればこそ、学校開放に主体的に働きかけ、子どもから大人までが活動できるように、場所と時間と指導者（選手を含め）を少しでも提供できるのではないかと思います。昨今、大学を拠点にし、このようにして創設されたスポーツクラブが増えつつあります。

４．実践報告や実践研究を積み重ね、成果を共有する

各人の指導実践の成果を何らかの形にし、様々な場で公表してほしいと思います。それが実践報告や事例検討になろうと、研究の体裁にとらわれず、記述し、まとめていくなかで何かが見えてきます。個々の経験財を蓄積し、文化財として共有できるようにするという営為を通じて、いずれは教科書や役に立つ指導書等が作成されていくものと思います。

ハンドボールを専門とする体育教師としての感性をさます契機は、ハンドボールとの様々な関わりかたに気づいたり気づかされたりするなかで、ハンドボールの真の姿を自ら求めていく姿勢にあると思います。

高松宮記念杯 第59回全国高等学校選手権大会

平成20年度全国高等学校総合体育大会

男子：長崎日大高校は初優勝
女子：府立洛北高校は４年連続７度目の優勝

最終順位

■男子
優勝　長崎日大高校（長崎県）／準優勝　興南高校（沖縄県）／第３位　大分雄城台高校（大分県）、藤代紫水高校（茨城県）

■女子
優勝　府立洛北高校（京都府）／準優勝　那覇西高校（沖縄県）／第３位　四天王高校（大阪）、大分鶴崎高校（大分県）

総　評

埼玉県高体連ハンドボール専門部委員長　宮澤 則夫

彩夏到来08埼玉総体は、「限界を超え、飛びたつ君よ、永遠の風になれ」のスローガンのもと、7月28日さいたまアリーナに皇太子殿下のご臨席を賜り、総合開会式が高校生主体の運営・進行により厳粛かつ華やかな式典として盛大に開催され幕を開けました。

ハンドボール競技は、総合開会式の同日午後、三郷市文化会館に全参加校の代表者を集め、（財）全国高体連ハンドボール専門部、森安昭雄委員長の開会宣言により、7月28日から8月3日までの94試合の幕が切って落とされました。開始式におきましては、（財）全国高体連ハンドボール専門部氷海正行部長のご挨拶に続き、（財）日本ハンドボール協会の渡邉佳英会長と地元大崎電気の宮﨑大輔選手より、現在のハンドボール界の勢いとそれを担う次のオリンピック世代の選手達の熱い戦いへのエールを頂き、全ての大会参加者が強い決意を胸に感じ、大会を迎えることになりました。

試合におきましては、男女共に一回戦から熱戦が続き、最後までどちらが勝つか予断を許さない試合が多く見られました。男子は、昨年の覇者で春の選抜大会優勝の北陸高校（福井県）が三回戦で敗退するという波乱の中、その北陸高校を破った興南高校（沖縄県）、大分雄城台高校（大分県）、長崎日大高校（長崎県）の九州勢と藤城紫水高校（茨城県）がベスト4に勝ち上がり、準決勝は多彩な攻撃でゲームを支配した興南高校が雄城台高校を退け、もう一方は前半のリードで優位にゲームを進めた長崎日大高校が必死の追い上げを見せる藤城紫水高校を冷静にかわして決勝の舞台へと駒を進めました。九州勢同士の対戦となった決勝戦は硬さの見える長崎日大高校を押さえ、興南高校が優位にゲームを進めましたが、辛抱強く喰らいついた長崎日大高校が後半20分過ぎから興南高校の一瞬のスキをつき猛攻を仕掛け、4点連取で一気に逆転、その後も集中力を切らさず守り抜き、嬉しい初優勝を決めました。今大会も含め長崎県内でも高いレベルの戦いを勝ち抜いてきた自信が監督・選手に感じられた戦い方でした。

女子は、春の選抜大会を制し、今大会4連覇を目指す洛北高校（京都府）が前評判通りの強さを発揮し、四天王寺高校（大阪府）、大分鶴崎高校（大分県）、那覇西高校（沖縄県）とともにベスト4に進出しました。準決勝では、洛北高校のエース乾をマンツーマンという策で挑んだ四天王寺高校でしたが、洛北高校は焦ることなく冷静にゲームを進め19点差をつけ快勝。九州勢同士の戦いとなったもう一試合は、後半堅い守りからスピードある攻めで一気に大分鶴崎高校を圧倒した那覇西高校が初の決勝進出を決めました。決勝戦は、那覇西高校が立ち上がり積極的なディフェンスから多彩な攻撃で洛北高校に喰らいついたが、タイムアウトを皮切りに洛北高校の猛攻が始まり、乾へのマークを逆手にとり、錦織ら他の選手が得点をあげるパターンで那覇西高校を引き離し、後半も攻撃の手を緩めることなく41対20の大差をもって、女子史上初の大会4連覇を成し遂げました。多くのプレッシャーが想像される中、楠本監督と選手が一丸となって自分達のプレーを見失うことなく戦う姿には、心から称賛の拍手を贈りたいと思います。

今大会は、女子が三郷市・八潮市・吉川市、男子が和光市・朝霞市の5市による男女別開催となり、しかも埼玉県の事情により女子は茨城県や千葉県、男子は東京都への配宿となり、多くのチーム関係者及び応援の方々に大変なご不便やご迷惑をお掛けしたことを心よりお詫び申し上げます。おかげを持ちまして大会7日間、大きな混乱もなく無事終了することができました。これも一重に本大会を支えていただきました（財）日本ハンドボール協会、（財）全国高体連ハンドボール専門部、5市による男女の実行委員会及び多くの大会役員・補助員・ハンドボール関係者・選手・監督・保護者の皆様のお力と心より感謝申し上げます。

最後になりますが、来年の全国総体（近畿まほろば総体）は京都府で開催されます。女子の洛北高校が地元での5連覇を狙うなど話題も多く、今年以上に熱い戦いが繰り広げられることと期待して総評といたします。

男子優勝チームの声 長崎日本大学高等学校（長崎県）





2点共 写真提供・スポーツイベント社

平成20年度 埼玉インターハイを終えて

長崎日本大学高等学校監督 谷山 理

通算17回目の出場となる平成20年度インターハイにおいて、初優勝を遂げることが出来ましたことを非常に嬉しく感じております。これもひとえに、関係各位・全国のハンドボール仲間・選手たちを長崎日大に預けてくださった保護者の皆様と中学校の先生方のお陰であると深く感謝しています。誠にありがとうございました。

今年のチームは、県新人戦決勝で10点もの大差をつけられて敗れるといった近年にない厳しい船出でした。春の全国選抜には2位からの予選を勝ち抜き、かろうじて出場しましたが、ベスト8止まり、4月の県大会も決勝で敗退するという状況でした。正直なところ、「今年はインターハイは無理かな」と考えてしまったこともありました。

しかし、そのような私の想いを大きく覆す形で、生徒たちは予想以上の成長を見せ始めたのです。毎年恒例になっている5月の大分合宿が大きなポイントとなりました。全国の強豪たちと数多くの練習試合をこなしていく中で、生徒たちに「自信」が芽生えてきた手応えを感じたのです。その後、県高校総体で、以前とは見違えるような自信に満ち溢れたプレーが見られ、ライバルに快勝し、インターハイへコマを進めることが出来ました。

インターハイにおいては、緒戦から、氷見・駿台甲府・愛知といった全国でも名だたる名門校との対戦が続きました。幸いにも勝ち続け、初めてのベスト4進出、準決勝では、春の選抜で敗れている藤代紫水と対戦し、前半のリードを活かし、何とか逃げ切りました。決勝戦は、九州の合宿仲間でもある、沖縄代表の興南高校との対戦となり、残り数秒まで勝敗がもつれる激戦を制することができました。

創部35年目にしての全国初優勝です。悔しい涙はそれこそ数え切れないくらいに流してきました。歴代の部員たちが飛び出してきて胴上げをしてくれたときに流した嬉し涙は格別なものであり、感慨無量でした。

選手・コーチ・OB・保護者・学校関係者、全てが一体となって、勝ち取ることが出来た「全国制覇」であると、改めて その応援・協力にただただ感謝しております。

これを機に、また初心に立ち戻り、原点からの努力を始めていく所存でございます。今後ともよろしくお願い申し上げます。ありがとうございました。









4点共 写真提供・スポーツイベント社

女子優勝チームの声 府立洛北高等学校（京都府）



写真提供・スポーツイベント社

インターハイを振り返って

府立洛北高等学校　乾　彩友美

平成20年度全国高校総合体育大会高松宮記念杯第59回全日本高等学校ハンドボール選手権大会において優勝させていただきました。このような結果を残すことができたのも、今大会の運営にあたり御尽力いただきました大会関係者の皆様、地域の皆様のおかげであり、また洛北高校に御支援、御声援を賜りました学校関係者の皆様、卒業生の皆様、保護者の皆様をはじめ数多くの温かいお心遣いがあったからです。本当に感謝の気持ちでいっぱいです。

今年の春の選抜大会で優勝をさせていただくことができました。そしてその翌日からは、新たにインターハイ四連覇に向って練習を積み上げてきました。選抜大会ではチームの一体感が欠けており、自分たちの思うようなハンドボールはできていませんでした。日々の練習の中で、プレー一つ一つに対する声かけや基本的なミスを減らすことを中心に練習をしてきました。

大会ではこれらの日々の積み重ねの結果、洛北高校の持ち味である、ディフェンスからの速攻を使って試合を有利に進めることができました。決勝戦では、苦しい場面もありましたが、自分たちのプレースタイルをくずさずに先生の日頃おっしゃっている言葉を思い出しながら無心にプレーをした結果、優勝という栄冠を勝ちとることができました。しかし、課題は残っています。自分たちの気持ちの弱さがミスにつながることがないように、メンタル面も鍛えていかなければいけません。また、個人の技術面での向上も必要です。



写真提供・スポーツイベント社

昨年のチームは、選抜大会、インターハイ、国民体育大会の三冠を果たされたので、インターハイで優勝をした今、私たちは次なる目標は三冠を成し遂げることです。そのためにも、国民体育大会に向けてインターハイで残した課題を克服していかなければいけません。

このチームでプレーができるのも残りわずかとなってきました。悔いの残らないように、そして三冠に向けて練習に取り組んでいきたいと思います。ありがとうございました。









4点共　写真提供・スポーツイベント社

戦 評

【男子】

▼準決勝

興南（沖縄） 33（14 − 13、19 − 15）28 大分雄城台（大分）

九州勢同士の準決勝は雄城台・伊東のロングシュートで幕を開けた。興南の高い位置での３−２−１DFに対し、雄城台はダブルポストを効果的に絡めながら得点を重ねる。対して興南はDFから速攻への切りかえが速く、ハーフ速攻・カットイン・ミドルで堀川が要所で得点を重ねていく。一進一退のゲーム展開が続き、前半を14対13と興南がリードして終えた。

後半戦、スタートダッシュに成功した興南は最大４点差まで引き離し一気に勢いに乗った。流れを取り戻したい雄城台はGK大鶴の必死のセーブで徐々に点差を詰めるも最後まで興南の勢いを止めることができず、33対28で興南が勝利した。

長崎日大（長崎） 35（20 − 10、15 − 22）32 藤代紫水（茨城）

先制したのは長崎日大の堀江。さらに濱口のロング・峰のサイドシュートで３点を連取。藤代紫水も果敢に勝負を仕掛けるが、長崎日大の堅い守りの前に苦戦を強いられ、たまらずタイムアウト。この時点で長崎日大が６対１とリードした。タイムアウト後、藤代紫水は猛進する。速攻を立て続けに決め、守備ではGK木村が7mTを好セーブし、２点差まで追い上げる。それでも長崎日大は攻撃の手を緩めず、20対10の大差でリードし前半を終えた。後半に入ると、試合展開が一転し藤代紫水ペースで進む。しかし、前半の失点が大きくひびき、長崎日大が35対32と見事勝利を収めた。

▼決勝

長崎日大（長崎） 27（11 − 14、16 − 11）25 興南（沖縄）

九州勢同士の決勝は慎重な立ち上がりとなる。序盤長崎日大は興南の高い３−２−１DFを崩すことが出来ず、なかなかペースがつかめない。対する興南は川上のカットイン・プロンジョンシュート、大浦の速攻・サイドシュートで５連取、８対３となったところで長崎日大がたまらずタイムアウトをとる。長崎日大は川端がゲームコントロールをはかるも流れは変わらず我慢の時間が続く。一進一退の攻防の中、前半序盤に長崎日大は濱口のロング・カットインで14対11の３点差として前半を終了する。

後半開始、長崎日大の峰・小崎のサイドシュートで一気に１点差とし、後半13分にはついに19対19の同点とする。興南は新垣の速攻・サイドシュートで踏ん張り、常にリードをキープし続けてきたが、後半24分についに逆転を許してしまう。その後、長崎日大は退場者を出すも集中力を発揮し、再び追いつかれることなく25対27で勝利し、初優勝を飾った。決勝戦にふさわしい息詰まる好ゲームであった。

【女子】

▼準決勝

洛北（京都） 37（16 − 10、21 − 8）18 四天王寺（大阪）

立ち上がり、速攻を中心に速い展開から得点を重ねる洛北に対し、フローター高山の個人技で応戦する四天王寺。しかしDF力とOFの展開力で勝る洛北が着々と点差を広げゲームの主導権を握る。四天王寺も洛北のエース乾にマンツーマンをつけ対抗するが洛北のパスワークに翻弄され前半は16対10と洛北リードで終わる。後半に入ってもGKを中心とした洛北の堅守と全員が展開に絡むオフェンスは素晴らしく観客を魅了するほどであった。四天王寺も最後まで前を狙うことを忘れず、好感が持てるチームであった。

那覇西（沖縄） 27（13 − 12、14 − 7）19 大分鶴崎（大分）

大分鶴崎日名子のサイドシュートで先制すると、那覇西は１対１・ミドル共に個人の高い能力が目立ち、パスカットからのスピードある速攻で得点を重ねていく。一方、大分鶴崎は粘り強いDFとGK安達の好セーブから速攻につなげ那覇西に大きなリードを許さない。１つのミスが命取りになる緊迫した雰囲気の中、12対13と那覇西のリードで前半を折り返した。

後半は那覇西前田のサイドシュートをきっかけに、一気に６点差をつけ大分鶴崎を引き離しにかかる。大分鶴崎もロングシュートで応戦するが那覇西の勢いを止めることができず、27対19で那覇西が決勝に駒を進めた。

▼決勝

洛北（京都） 41（19 − 10、22 − 10）20 那覇西（沖縄）

４年連続通算７回目の全国制覇を目指す洛北に対し、県勢としては３年振りの決勝進出を果たし、リベンジに燃える那覇西が挑戦する一戦である。今大会力の違いを発揮し、安定した試合運びを展開してきた洛北と、１回戦より接戦を制し決勝に標準を合わせてきた成長著しい那覇西である。お互いやや硬さが目立ち攻撃のリズムがつかめない。試合が動いたのは開始２分、２連続速攻を決めて試合の主導権を握るかに見えた洛北。２本の7mTで追いつき那覇西平良のミドルで１点差のシーソーゲームが約10分間続く。ムードは那覇西かと思われたが、洛北GK花岡の連続好セーブから速攻・ミドル・カットインと小気味よい加点で一気に流れは洛北へ。前半を19対10で折り返す。

試合の興味は那覇西の粘りに移る。攻守のバランスが噛み合い着実に加点をする洛北。焦りから持ち味のプレー展開ができない那覇西。試合の主導権は終始洛北が握る。大量得点差で多彩なプレーを展開する洛北、時折見られる那覇西のプレーも点差を縮める力とはならず41対20で洛北が圧勝する。来年のインターハイが開催される京都府、洛北を破るのは全国どこの高校となるか、それともV5となるのか。V4おめでとう。

平成20年度全国高等学校総合体育大会

高松宮記念杯　第59回全国高等学校ハンドボール選手権大会

男子の部

北　陵　高　校（福　井）
県立法隆寺国際高校（奈　良）
県　立　境　高　校（鳥　取）
明　星　高　校（東　京）
県　立　湯　沢　高　校（秋　田）
興　南　高　校（沖　縄）
県立東岡山工業高校（岡　山）
市　立　千　原　台　高　校（熊　本）
徳　島　市　立　高　校（徳　島）
桃　山　学　院　高　校（大　阪）
県　立　富　岡　高　校（群　馬）
高　山　西　高　校（岐　阜）
府　立　洛　北　高　校（京　都）
県　立　柏　崎　高　校（新　潟）
県立大分雄城台高校（大　分）
県　立　江　津　高　校（島　根）
法　政　大　学　第　二　高　校（神奈川）
学　校　法　人　石　川　高　校（福　島）
北海道札幌真栄高校（北海道）
浦　和　学　院　高　校（埼　玉）
県　立　清　水　東　高　校（静　岡）
県立青森商業高校（青　森）
土　佐　高　校（高　知）
県立小林工業・小林秀峰高校（宮　崎）

長崎日本大学高校（長　崎）
県　立　不　来　方　高　校（岩　手）
県　立　氷　見　高　校（富　山）
県　立　松　山　東　高　校（愛　媛）
神戸国際大学附属高校（兵　庫）
駿　台　甲　府　高　校（山　梨）
県立岩国工業高校（山　口）
愛　知　高　校（愛　知）
県立鹿児島工業高校（鹿児島）
県　立　塩　釜　高　校（宮　城）
県　立　川　口　東　高　校（開催地）
県　立　長　野　南　高　校（長　野）
県立四日市工業高校（三　重）
県　立　小　松　明　峰　高　校（石　川）
市　川　高　校（千　葉）
県　立　紀　北　農　芸　高　校（和歌山）
祐　誠　高　校（福　岡）
國學院大學栃木高校（栃　木）
佐　賀　清　和　高　校（佐　賀）
県　立　向　原　高　校（広　島）
県　立　彦　根　東　高　校（滋　賀）
県　立　香　川　中　央　高　校（香　川）
県　立　北　村　山　高　校（山　形）
県　立　藤　代　紫　水　高　校（茨　城）

優勝・長崎日本大学高校

準優勝・興南高校

平成20年度全国高等学校総合体育大会

高松宮記念杯　第59回全国高等学校ハンドボール選手権大会

女子の部

府立洛北高校（京都）	県立大分鶴崎高校（大分）
県立福井商業高校（福井）	県立境高校（鳥取）
県立今治東中等教育学校（愛媛）	県立栃木商業高校（栃木）
県立飛騨高山高校（岐阜）	県立奈良北高校（奈良）
県立佐世保商業高校（長崎）	県立不来方高校（岩手）
県立横浜南陵高校（神奈川）	県立静岡城北高校（静岡）
松江市立女子高校（島根）	県立屋代高校（長野）
県立東根工業高校（山形）	県立向原高校（広島）
県立那賀高校（和歌山）	埼玉栄高校（開催地）
浦和実業学園高校（埼玉）	宮崎学園高校（宮崎）
県立蒲生高校（鹿児島）	県立岡豊高校（高知）
県立巻高校（新潟）	滋賀学園高校（滋賀）
県立大曲農業高校（秋田）	夙川学院高校（兵庫）
県立城北高校（徳島）	県立玉野光南高校（岡山）
昭和学院高校（千葉）	県立水海道第二高校（茨城）
県立日川高校（山梨）	県立那覇西高校（沖縄）
学法松浦学園城北高校（熊本）	聖和学園高校（宮城）
名古屋経済大学市邨高校（愛知）	高岡向陵高校（富山）
県立徳山高校（山口）	文化女子大学附属杉並高校（東京）
県立神埼清明高校（佐賀）	県立福島西高校（福島）
小松市立高校（石川）	暁高校（三重）
県立青森西高校（青森）	北海道札幌西高校（北海道）
県立吉井高校（群馬）	筑紫女学園高校（福岡）
四天王寺高校（大阪）	県立高松商業高校（香川）

優勝・府立洛北高校

準優勝・県立那覇西高校

速報

北京オリンピック：大会成績

北京オリンピックのハンドボール競技は、男女各 12 カ国が参加して、8月9日から 24 日までの 16 日間開催された。熱戦が展開される中、男女とも欧州勢が強さを発揮し、男子はフランス、女子はノルウェーが金メダルを獲得した。又、アジア勢の中では、韓国女子チームの銅メダルが光った。

最終順位：男子

1 フランス
2 アイスランド
3 スペイン
4 クロアチア
5 ポーランド
6 ロシア
7 デンマーク
8 韓　国
9 ドイツ
10 エジプト
11 ブラジル
12 中　国

最終順位：女子

1 ノルウェー
2 ロシア
3 韓　国
4 ハンガリー
5 フランス
6 中　国
7 ルーマニア
8 スウェーデン
9 ブラジル
10 カザフスタン
11 ドイツ
12 アンゴラ









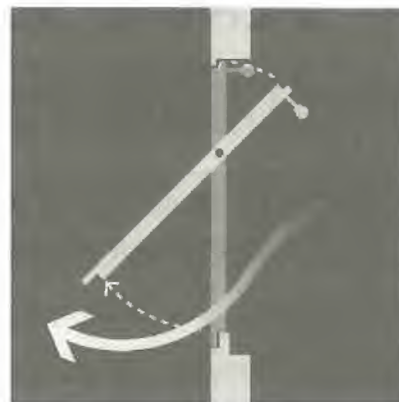




呼吸する建築

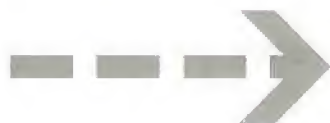






Swindow ● スウィンドウ
わずかな風圧も捉えて自然に開閉し、室内外の温度差で効率の良い換気が行えるバランス式逆流防止窓。



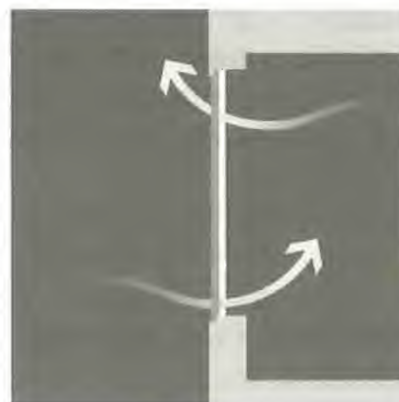




Wincon ● ウィンコン
内蔵の調節弁により、風の強弱に影響を受けにくく、定風量で換気が行えるヨコ型定風量換気スリット。







Cavcon ● キャブコン
内蔵の調節弁により、強風時でも一定の風量で換気ができ、無風時でも内外の温度差による重力換気が行えるタテ型定風量換気スリット。

NAV WINDOW 21

「呼吸する建築」。それは人が呼吸をするように
建築が自然に空気を取り入れ、建物内部の空気を新鮮に保ち
不要なものを排出するシステムを持つことです。
自然換気システム＝NAV WINDOW 21は
これまでの建築の機械空調と共存し
建物を取り囲む風を読み、建物内に風の道を作りそれを状況の変化に
あわせて制御する画期的な換気システムです。

三協立山アルミ株式会社
東京本社／〒164-8503 東京都中野区中央1-38-1
住友中野坂上ビル20F〈環境商品部〉 TEL(03)5348-0367
インターネットホームページ http://buildingsash.net/

男子・大崎電気 女子・北國銀行 が優勝

高松宮記念杯 第49回全日本実業団ハンドボール選手権大会を振り返って

全日本実業団ハンドボール連盟理事長　原田 孝幸

高松宮記念杯第49回全日本実業団ハンドボール選手権大会は、沖縄県ハンドボール協会様のご尽力を賜わり、沖縄県那覇市にて開催いたしました。

本大会の開催にあたり、多大なるご尽力を賜わりました大会役員の皆様をはじめ関係各位の皆様方に改めて御礼と感謝を申し上げます。

さて、今年度で49回目の開催となった今大会は、男子12チームと女子は昨年より1チーム少ない5チームの出場となりました。

男子は、昨年度優勝の湧永製薬、準優勝の大崎電気、3位の大同特殊鋼、4位のトヨタ紡織九州をシードとし、予選トーナメントを勝ち上がった4チームでの決勝リーグ戦を行い、女子は、5チームでのリーグ戦を行いました。

開幕戦の琉球コラソンvsホンダ熊本は地元の応援団が観客席を埋め尽くし、初日としては今までに無い盛り上がりの中試合が行われ、結果は琉球コラソンが1点差でホンダ熊本に競り勝ち、湧永製薬戦に駒を進めました。

2回戦では、湧永製薬、大崎電気、大同特殊鋼が順当に勝ち進む中、トヨタ紡織九州がHondaに敗れ、決勝リーグは湧永製薬、大崎電気、大同特殊鋼、Hondaの4チームでの対戦となり、大同特殊鋼には引き分けたものの、湧永製薬、Hondaに競り勝った大崎電気が4年ぶり14回目の優勝を飾りました。

女子は、昨年優勝のオムロンが順当に勝ち進む中、大会3日目に昨年2位の北國銀行が広島メイプルレッズに敗れ、オムロン優勢かと思われたが、最終日の直接対決で見事北國銀行がオムロンに競り勝ち、15年ぶり2回目の優勝を飾りました。

個人賞

	■男子	■女子
MVP	宮﨑 大輔（大崎電気）	田代 ひろみ（北國銀行）
新人賞	名嘉 伸明（湧永製薬）	藤井 優（香川銀行）
ベスト	浦和 克行（大崎電気）	田代 ひろみ（北國銀行）
セブン	宮﨑 大輔（大崎電気）	東濱 裕子（オムロン）
	東長濱 秀作（湧永製薬）	上町 史織（北國銀行）
	古家 雅之（湧永製薬）	長野 かづさ（ソニーセミコンダクタ九州）
	猪妻 正活（大崎電気）	若松 里佳（北國銀行）
	鶴見 拓（Honda）	佐久川 ひとみ（オムロン）
	富田 恭介（大同特殊鋼）	高栖 由香（ソニーセミコンダクタ九州）

戦　評

男子決勝リーグ：8月1日（金）
湧永製薬　32（18－12、14－13）25　Honda

開始1分湧永・東のシュートが決まると、すかさずHonda・横地のシュートで同点。開始12分まで一進一退の攻防が続くが、湧永・東長濱、山中、新の3連続得点でHondaを突き放す。Hondaも鶴見の速攻、河瀬のポストシュートで食い下がるが、24分過ぎに湧永・東長濱・山中が3連続ミドルシュートを決め、湧永6点リードで前半を折り返す。後半立ち上がり、Honda・竹田、鶴見、横地のシュートで追い上げるが、湧永が前半のリードを保ち1勝を上げた。

男子決勝リーグ：8月1日（金）
大崎電気　28（11－14、17－14）28　大同特殊鋼



前半1分過ぎに大崎は宮﨑のパスカットからの速攻で先制するが、2分過ぎから大同・富田のポストシュートを皮切りに5連続得点で、一気に4点差とする。その後は一進一退の攻防が続き、大同が3点リードで前半を折り返す。後半立ち上がり大崎・岩永、永島、前田で3連続得点し2分過ぎに同点とし、その後はお互いに譲らず気迫のこもった攻防が続く。28分に大同・富田のシュートが決まり、このまま逃げきるかに思えたが、29分に大崎に7mスローが与えられ、キャプテン猪妻が確実に決め同点とする。その後、緊張の1分が続くがそのままタイムアウト。昨年に引き続き引分という結果となった。

男子決勝リーグ：8月2日（土）
大崎電気　30（16－13、14－16）29　湧永製薬

前半立ち上がり、大崎が宮﨑・永島の連続得点で試合の流れを掴むかに思えたが、湧永も新の2連続得点で同点。11分過ぎに大崎の前田、内田、東の3連続得点で4点差とし、幅広い攻撃で得点を重ねる大崎が、3点リードで前半を折り返した。後半も大崎のリードを湧永が粘り強く追う展開が続き、このまま大崎が逃げ切るかに思われたが、残り4分、湧永が連取で1点差に詰め寄り、残り30秒でキャプテン古家のシュートで同点とする。残り25秒で大崎はタイムアウトを取り、最後の攻撃に望みを繋げる。残り4秒、大崎の内田が放ったシュートがゴールネットを揺らし終了。大崎電気が1点差で競り勝った。

男子決勝リーグ：8月2日（土）
大同特殊鋼　26（15－14、11－11）25　Honda

前半開始1分、Honda竹田のシュートで先制。大同も末松・富田がシュートを決め、開始10分過ぎまで、5対5と一進一退の展開が続く。その後、Hondaが先行する形で試合は進行

するが、大同も離されずに追撃する。前半26分過ぎに大同・岸川のシュートで同点とし、27分には松永のミドルシュートで逆転に成功。大同1点リードで前半を折り返した。後半6分過ぎにHonda河瀬の2分間退場の間に、大同は末松・富田・渡久川の4連取で21対15と6点差とするが、その後、Hondaの守護神GK四方が再三にわたりノーマークシュートをセーブしたのをきっかけに、横地・野嶋で得点を重ね1点差に詰め寄るが、大同が1点差で逃げ切った。

男子決勝リーグ：8月3日（日）
大崎電気　35（18－8、17－16）24　Honda

前半開始1分、大崎・宮崎のロングシュートにて先制。3－2－1ディフェンスの堅い守備を敷く大崎は開始9分までに6対0とリードし、優位に試合を展開する。たまらずHondaはタイムアウトを取り、その後、鶴見・横地らの得点で追撃するも、大崎GK浦和の再三の好セーブに阻まれ、点差が縮まらず、18対8の大崎電気10点のリードで前半を折り返す。後半は両チームともに一進一体の攻防が展開されるが、前半の大量リードを守り大崎が勝利をおさめた。

男子決勝リーグ：8月3日（日）
湧永製薬　33（16－16、17－16）32　大同特殊鋼



前半1分過ぎに大同・武田のシュートで先制するが、湧永は古家・東長濱のシュートでリードを奪う。東・新で得点を重ねる湧永に対し、大同は山城・富田らのシュートで応戦し、1点を争う展開に。27分過ぎに大同は富田のシュートで逆転に成功するが、湧永も山中のシュートで同点とし、前半を16対16で折り返す。後半は湧永がリードを保ち、大同が追う展開。20分過ぎに湧永が3連続得点で引き離すが、大同も地引・岸川・武田・末松の4連続得点で同点とする。残り30秒でタイムアウトを取り1プレーに望みを繋げる湧永は、終了間際フリースローからの古家のシュートが決まり劇的な勝利を飾った。

女子リーグ：8月2日（土）
オムロン　27（14－12、13－14）26　ソニーセミコンダクタ九州

開始2分、ソニーは亀山のシュートで先制。オムロンも藤井のミドルシュートで応戦。その後、両チーム堅い守りとゴールキーパーの好セーブもあり一進一退のゲームが展開された。前半残り2分にオムロンは吉田・佐久川が連続得点し、14対12の2点リードで前半を折り返した。後半1分過ぎオムロンは東濱・西本・吉田で連続得点し5点差とするものの、ソニーも東・亀山・高栖で得点を重ねオムロンに食い下がる。後半開始16分、ソニーは工藤・高栖のシュートで同点とし、18分過ぎには郭・長野のシュートが決まり逆転に成功する。残り3分オムロンの安心院がシュートを決め再び同点とし、残り2分には城内が逆転シュートを決めオムロンが接戦を制した。

女子リーグ：8月2日（土）
香川銀行T・H　26（15－13、11－12）25　広島メイプルレッズ

広島のスローオフで試合開始。前半1分に香川の道越の速攻で先制するが、広島も李のシュートで同点とする。開始9分過ぎから香川・藤井のシュートが決まり出し22分過ぎには4点のリードとする。その後も両チームとも得点を重ね、15対13と香川のリードで前半を折り返す。後半も香川が前半のリードを保ち優位に試合を展開、16分過ぎ広島は大前・李で連続得点し同点とするが、香川の道越らが得点を重ね、広島を突き放す。残り3分広島は李・植垣のシュートで1点差まで追い上げるが香川が逃げ切り勝利を飾った。

女子リーグ：8月3日（日）
ソニーセミコンダクタ九州　30（15－13、15－8）21　広島メイプルレッズ



前半開始30秒ソニー・長野のシュートで先制するが、広島は大前・植垣の得点で1点差とする。ソニーは7分過ぎに工藤・亀山・郭のシュートで4連続得点し、逆転に成功する。その後、一進一退の攻防が続きソニーが2点リードで折り返す。後半は広島の土屋・植垣の得点で同点とするが、ソニーは4分過ぎに東のシュートを皮切りに7連続得点し、広島を引き離す。その後もソニーは攻守ともに安定したゲームを展開し、30対21の9点リードで勝利する。

女子リーグ：8月3日（日）
北國銀行　22（14－13、8－7）20　オムロン

北國は開始40秒で野路（良）のステップシュートで先制。オムロンは東濱・佐久川・藤井で得点を重ねるが、北國も野路（良）・上町・武井のシュートで応戦。開始7分までは攻守ともに両チームとも1歩も譲らない展開が続いた。10分過ぎに北國は宮前・上町・武井の3連続シュートで4点のリードとするが、オムロンも16分過ぎには東濱・佐久川・西本の得点で食い下がった。その後も両チームとも得点を重ね、14対13と北國が1点リードで前半を折り返した。後半は出だしから両チームともゴールキーパーの好セーブやミスが続き得点が入らず試合が動いたのは12分過ぎ。北國・武井、上町、宮前の3連続得点で一気にオムロンを引き離した。オムロンも久野・高田で応戦するが、北國・上町の2連続得点が勝利を決めた。両チームとも動きの早い攻防で観客を圧倒させる試合であった。



第16回 世界女子ジュニア選手権

（財）日本ハンドボール協会・団長　荘林 康次

1．はじめに

今回の開催地はマケドニア、マケドニアと聞けば彼のアレキサンダー大王を思い浮かべる人は多いが、現在のマケドニアはスラブ系が多数派を占める多民族国家であり、紀元前4世紀にアレキサンダー大王を輩出した古代マケドニアとは民族的な繋がりはなく、地理的にもかなり異なる。最終試合が行われる首都スコピエは民族紛争地・コソボの近くと知り、現地治安状況確認の意味もあり、バルカン半島に詳しい外務省元審議官、公使・大使を歴任退官した学生時代のクラスメートに相談してみた。現地情勢は現在は落ち着いていると聞き一安心したものの現地には日本の大使館・領事館はない。しかし代行業務は在オーストリア日本大使館が兼務と聞いたので、万一の場合に備えて現地への然るべき連絡を依頼したところ本省より公電の打電アレンジなどの協力を快諾してくれたのは、選手団を預かる身としては心強い限りであった。

我々選手団一行は、成田出発時より日本代表として世界選手権大会に臨む意識を高めるべく、選手全員は各自自由な私服ではなくてJAPANデザインのウエアー着用で行動した。第二次合宿をハンガリーで行い7月20日にマケドニア入りした。今回の参加国は世界各地よりの20ヶ国、この20チームが4グループに別れ各グループ総当りで予選ラウンドを行い、各グループ上位3チームが本戦ラウンドに進むというシステムで各試合が展開された。大会運営はIHF（国際ハンドボール連盟）管理の下、マケドニアハンドボール連盟が行った。大会会場は各グループごと4箇所に分かれ、我々のグループは最終順位決定戦、決勝戦が行われるスコピエからバスで2－3時間ほど離れた小さな田舎町、ゲブジェリア（人口23,000人）で予選ラウンドを戦い、その後バスで2時間ほどのヴィニッサ（人口15,000人）に移動、予選ラウンド順位決定戦を行った。

2．試合結果・戦評

▼予選リーグ

日　本　31（13－13、18－14）27　カザフスタン

【日本の得点】樽井6，沢井5，戎野4，八十島4，石野2，鳥飼2，増田2，塩田2，田邊2，岡本1，岡田1

モンテネグロ　31（13－16、18－14）30　日　本

【日本の得点】樽井9，田邊7，石野4，鳥飼4，沢井3，八十島2，松本1

選手名簿

役職	名前	所属
団　長	荘林　康次	（財）日本ハンドボール協会
ヘッドコーチ	東江　正作	（財）日本ハンドボール協会
コーチ	市来　未央	（財）日本ハンドボール協会
ドクター	坂口　満	熊本整形外科病院
トレーナー	飯田　純一郎	Jアスリートケア

		名前	所属	最終出身校
1	CP	松本　紗弥香	オムロン	大分鶴崎高校
2	GK	平良　彩乃	武庫川女子大学	那覇西高校
3	GK	橋本　千里	国士舘大学	高津高校
4	CP	八十島　智美	北國銀行	福井商業高校
5	CP	沢井　理絵	武庫川女子大学	四天王寺高校
6	CP	岡本　真季	大阪教育大学	四天王寺高校
7	CP	石野　実加子	筑波大学	氷見高校
8	CP	鳥飼　翠	日本女子体育大学	富岡東高校
9	CP	塩田　沙代	香川銀行	高松商業高校
10	CP	筑後　春香	香川銀行	華陵高校
11	CP	樽井　沙織	国士舘大学	浦和実業高校
12	CP	戎野　満梨奈	武庫川女子大学	四天王寺高校
13	CP	森脇　奈菜	大阪教育大学	四天王寺高校
14	CP	岡田　好美	武庫川女子大学	夙川学院高校
15	CP	田邊　夕貴	大阪体育大学	洛北高校
16	CP	増田　寛那	大阪教育大学	大分鶴崎高校

アンゴラ　26（15－11、11－13）24　日　本

【日本の得点】樽井10，鳥飼4，田邊3，沢井2，増田2，八十島2，岡本1

デンマーク　34（16－10、18－18）28　日　本

【日本の得点】鳥飼11，石野6，戎野3，筑後3，樽井2，八十島2，岡田1

▼順位決定リーグ

日　本　35（15－12、20－19）31　スロベニア

グループA5位のスロベニアと対戦、立ち上がり両者シュートを放つが得点に結びつかず、2分55秒、スロベニアのカットインから得点が始まる。3分25秒から石野のステップ・ミドルシュートで3連取し、松本のサイドシュートで7対4と日本がリードする。中盤日本のシュートミスから得点を許し8対8の同点とされたが、石野のファイト溢れるプレイに対し、スロベニアの選手が退場となり、樽井のシュートで10対8とする。日本はディフェンスでは増田・岡本・塩田が粘り強く守り速攻へと結びつけ前半を15対12で折り返す。

後半、沢井のシュートや岡田のカットインにより17対13としたが、スロベニア1人退場の場面で2得点を奪われ17対16となり、5分46秒には17対17の同点となる。鳥飼のシュートと松本のサイドシュートにより19対17と2点差としたが、9分に再び20対20の同点とされる。スロベニアのシュートを平良の好セーブにより速攻へと繋げ塩田が7mスローを取り、樽井が決め27対23とした。途中、同点にされる場面もあったが良く耐え35対31で勝利した。石野の体を張ったプレイによりチーム全体の士気も高まり、各選手がしっかりと役目を果たした試合であった。

【日本の得点】石野8，鳥飼7，八十島6，樽井5，沢井4，松

本2，戎野1，筑後1，岡田1

日　本　33（16－10、17－12）22　オーストラリア

グループC5位のオーストラリアと対戦。オーストラリアのスローオフから始まり、カットイン・ロングシュートで0対2とされる。鳥飼のカットインシュートで1対2とし田邉のサイドシュートで2対2の同点とする。徐々に得点を重ね、筑後のスピードあるフェイントで7対3とした。25分オーストラリア8番にロングシュートを決められ、日本はオフェンスミスからリズムを崩し、前半を16対10で折り返す。

後半に入り、日本はディフェンスの動きが良くなり、カットから松本・塩田・森脇の速攻や岡田のミドルシュートにより、得点を重ね33対22と勝利した。この試合では9得点とコンスタントな働きをみせた松本のプレイが光った。

【日本の得点】松本9，岡田5，田邉4，森脇3，鳥飼2，樽井2，筑後2，塩田2，石野1，戎野1，増田1，八十島1

日　本　30（17－8、13－16）24　チャイニーズタイペイ

【日本の得点】八十島6，沢井5，鳥飼5，石野4，樽井4，筑後3，戎野2，岡本1

▼13－14位決定戦

アイスランド　27（15－12、12－14）26　日　　本

【日本の得点】樽井8，石野4，増田3，鳥飼2，田邉2，戎野1，沢井1，塩田1，筑後1，岡本1，八十島1，岡田1

3．総評

マケドニアにおいては、ハンドボールはサッカーに次いでの人気スポーツとして大衆スポーツ化している模様、毎試合多くの老若男女の観客が集まった。試合は通常夕刻に開始される。今回の大会でも連日試合開始時刻は19時と21時であった。観客はハンドボールに精通しており、審判のおかしなジャッジには、応援するチームの別なくブーイングが会場内に響き亘った。マケドニアでは余り英語が通用しない。従って、バルカン諸国以外の各チームには英語を専攻する女子学生がガイド役としてアテンドしてくれた。大会期間中、運営を行う組織委員会への質問・連絡などは言葉の関係上、全てガイド経由で行わざるを得なかったが、組織委員会責任者へのコンタクトがスムースに行えないとのことで即答、即応してもらうことが少なく、通訳など日常現場業務も兼務した小生はコミュニケーションには些か苦労した。しかし、英語で話せるIHF理事、組織委員会役員関係者の皆さんとはチャンスを見付けては親しく懇談した。小生の些か錆びついた英語ではあったが少しはハンドボール外交展開に役立っておればありがたい。

今回、日本出発に先立って小生から選手の皆さんには、ナショナルレベルのチームでは勝つことがターゲットである、勝つ試合をしよう、且つ、副次的にスポーツの国際化、ハンドボールを通じての国際交流も頭に入れておいて欲しいと強調しておいた。本大会終了後、振り返ってみると選手の皆さんはこれらの事をよく実践、頑張ってくれた。選手にとって学ぶべき点が極めて多き大会であったと思う。勝つことにより人生は変わる。

今回習得した教訓を大事にしてこれからの人間形成に役立たせ、逞しい人間に成長して欲しいと成田での選手団解団にあたって小生の挨拶とした。監督、コーチ、ドクター、トレーナー、選手の皆さんと彼の地での約3週間、素晴らしき人達との出会いであった。

最終順位

優勝	ドイツ	11位	アンゴラ
2位	デンマーク	12位	アルゼンチン
3位	韓　国	13位	アイスランド
4位	スペイン	14位	**日　本**
5位	ハンガリー	15位	スロベニア
6位	クロアチア	16位	アルジェリア
7位	フランス	17位	チャイニーズタイペイ
8位	モンテネグロ	18位	マケドニア
9位	ブラジル	19位	カザフスタン
10位	ルーマニア	20位	オーストラリア

第16回女子ジュニア世界選手権報告書

女子ジュニア日本代表ヘッドコーチ　東江 正作

06年のインダストリアルカップ、アジア予選とこのチームを指揮し、世界で戦い勝つために必要なものは何かと、考えたところ方向性として次の2点に集約しました。

1、「自立した選手」

2、「コートの中で100％ファイトする」

戦術として1、オフェンスは強い縦の攻めからワイドな位置取り、パラレル、ポジションチェンジ、システムチェンジで連動し継続的に攻める。2、ディフェンスではコンパクトな6－0とトップがボール中心に動く5－1を基本としたシステム。3、速攻では一次は両サイドがワイドに深く、ポストが9m付近で位置取り。二次は、BCPからポストを絡めリターンで逆サイドの視野外までとし、それが成功しなければ完全にセットオフェンスへ移行。

大会の数値目標として掲げたのは、予選ラウンドの最終戦であるデンマーク戦まで3戦全勝で決勝ラウンド進出し、トップ6入りでした。大会までの準備期間として、5月、6月に5日間の計10日間国内合宿でシステムの理解と確認を行い、ハンガリーで4日間の直前合宿を行い、コンディション調整とトレーニングマッチでシステム確認と修正を行いました。

7月21日（月）いよいよ世界選手権開幕、予選ラウンド初戦はアジア予選で苦杯をなめているカザフスタンと対戦、チーム全体がリベンジの気持ちが強く、最高のモチベーションで31対27と快勝。次のモンテネグロ戦へ向け良い状態で臨めた。

22日（火）モンテネグロ戦は前半16対13のリードで折り返し、絶えず優位にゲームを運んでいたが、188㎝の長身左腕Toskovicのシュートを止めることが出来ず57分57秒30対31と逆転される。しかし、59分42秒、相手2人退場の絶好の場面で、会場が騒然とするなか日本の9mTから右サイドがノーマークとなったがシュートが外れ無情のタイムアップ。強豪相手に惜敗しチーム全員が悔し涙を流した。

23日（水）はゲームがなく、リフレッシュと翌日の対戦相手の分析を行った。

24日（木）は決勝リーグへ進むには絶対落とせないアンゴラ戦。前日までの戦い方をすれば問題なく勝てるゲームであったが、この日は攻撃のリズムが非常に悪く、1点を取るのに6分52秒を要し、連動し継続的な攻撃が影を潜めDFに近くなり無理なシュートを打っては逆速攻と悪循環に陥ってしまった。前半を11対15と4点のビハインドが最後まで重くのしかかり、1点差まで詰め寄るも直後に得点され最終的に24対26と選手、スタッフにとってショックの大きい敗戦となった。

25日（金）は世界トップレベルのデンマークとの試合。先取点を取りイーブンで進んでいたが23分に退場者が出て攻撃のリズムを失い10対16で折り返す。後半は速攻や縦の強さを生かした攻撃で追い上げるも、センターKristiansenに残り9分で7連続得点され28対34と予選リーグ敗退が決まった。

しかし、このゲームでは6－0ディフェンスでのシュートブロックや5－1からトップがスティールと、これまでの日本の戦い方になかったシーンが出現した。オフェンスでも掲げてきた縦の強い攻めからディフェンスを揺さぶり得点することが出来たことは、今後の戦いに大いに希望がもてた。

26日（土）・27日（日）とゲームがなくコンディション調整と気分転換を図り28日（月）の順位決定リーグへ臨んだ。07年のインダストリアルカップで敗れているスロベニアとの戦いは、センター石野の強気なゲームメイクから各ポジションで満遍なく得点し、35対31で勝利。

29日（火）のオーストラリア戦は前日の戦力分析から、主力を休ませて戦うことに成功し33対22で勝利。

31日（木）チャイニーズタイペイ戦はアジア予選のリベンジマッチと位置づけ、選手も集中し前半で17対8と勝利を決定的とし30対24で勝利。

8月2日（土）13・14位決定戦は優勝したドイツに予選ラウンド1点差負けでグループAでは、得失点で順位決定リーグへまわったアイスランドとの一戦は、一進一退の攻防が続いていたが、ディフェンスから速攻へ移る場面で、普段では起こりえない、相手にマークされている味方選手へのパスや、ボールに背中を向けている選手へのパスと要所でテクニカルミスが出て、26対27で敗戦。

今大会の日本チームは、どのチーム対しても可能性を感じさせる戦いであったが、極限状態での的確な判断、プレイが勝敗の明暗を分けた。このチームを率いて2年間、日本としての戦術、戦略を落とし込み、コートの中では自ら判断し自立することを求めてきました。この部分に関してある程度は達成できたが、極限状態でとなると、トレーニングで出現させることは難しく、タフなゲームを数多く経験することで克服できることでしょう。世界選手権において全試合接戦で戦うことができた今回、結果は14位とふるわなかったが、世界で勝つためのヒントは得られたものと確信しました。

この大会は、荘林団長の心温まる叱咤激励、ビジネスで世界を渡り歩いた経験等勉強になりました。坂口ドクター、飯田トレーナーの献身的なケアにより、常によいコンディションでゲームに臨むことができました。そして選手を快く送り出してもらいました所属チームの監督の方々に対し心より感謝申し上げます。

このようにわれわれ選手、スタッフだけでは乗り切ることが出来なかったであろうが、チーム日本として一体となり戦えたことと確信しています。

最後になりましたが、世界で勝つことの困難さを身をもって経験したことを日本ハンドボール界の競技力向上に微力ながら協力していく所存です。

第16回女子ジュニア世界選手権を終えて

女子ジュニア日本代表　石野 実加子

このチームが世界選手権に向けきちんと始動したのは5月の合宿からでした。私は、昨年のアジア選手権にも出場していましたが、今回のメンバーを見ると、半分が全くの新しいメンバーになっており、正直とまどいと、不安がありました。チームとしての戦い方の共通理解はとても重要で、それが早く浸透するように、私も今までの経験をみんなに伝えました。少しでも世界はどんな感じなのか、このチームの方向性を全員がわかることでチームもひとつになっていくだろうと考えました。

実際の大会では、予選リーグで1勝3敗とメインラウンドには行くことができず、順位決定戦に回ることになってしまいました。その中で、1点差で負けてしまったモンテネグロ戦は勝つことができた試合。みんなが1点の重みを感じ、悔しい思いをしたGameでした。しかし、ヨーロッパの大きい選手と対等に戦えて、日本とヨーロッパの差を感じず、充分戦えると自信を持った試合でもありました。次のアンゴラ戦も勝たなくてはいけない相手でしたが、リズムが全くつかめないまま、勝ちきれませんでした。順位決定戦では3勝1敗となり、結果14位でした。

全体は、4勝4敗と前回を上回る勝敗だったのですが、勝てる、勝たなくてはいけないところで、取りきれてないという結果が14位と、決して満足できない成績になってしまいました。

そこには、日本の経験不足が大きく関わってくると思います。国内で味わうことができない、世界大会という独特な雰囲気、緊張感、初めてのメンバーは本当に飲み込まれそうになったと思います。そして、ハンドボールに取り組む姿勢、技術の違いを大きく感じました。小さな頃から鍛錬してきているヨーロッパの選手は、様々なテクニックを持っています。そのテクニックに圧倒されました。日本は個人技術が本当に少ないです。自分もその違いを感じました。日本国内でそのテクニックを身につけ個人技術を鍛えていこうと思いました。もう、日本とヨーロッパの差は感じません。必ず日本も勝てるんです。個人能力をあげ、日本のスピード、組織力を合せ、戦っていけば充分に戦えるという気持ちを持つことができました。

結果を残すことができなく、競った試合であっても結果を残すことが全てだということはわかっているし、実際ふがいない順位となってしまいました。しかし、この大会で経験してきたことをプラスにして、今後の競技生活に大きく反映させていきたいと思っています。

～日本の「武器」は？～

企画・広報委員
早川　文司

Free Throw フリースロー

北京オリンピックで世界を相手に戦うむずかしさを改めて感じた。晴れ舞台を目指して鍛えてきた技。どうすれば出し切れるか。アスリートにとっては長年のテーマだろう。

大きな期待を背負って中国へ乗り込んだサッカー男子の戦いから、それを見ることが出来た。予選1次リーグ3戦全敗の勝ち点ゼロ。Ｊリーグが誕生してからでは最低の成績に終わった。3試合で得点は1。以前から指摘されていた決定力不足が顔をのぞかせたとも言えよう。

だが、それだけだろうか。世界との大きな差を感じたに違いない。確かに得点が奪えないと勝利はない。得点チャンスはあったにもかかわらず、確信を持ったプレーが出来ないことが要因の一つだろう。

しかし、それよりも重要なのは、戦う上での「日本の武器」とは一体何だったのかーではなかろうか。体格、体力の差を挙げてもどうしようもない。日本人の体格は近年、向上している。でも、フィジカル面を比較すれば、まだまだと言えよう。その差を埋めるものをつくることが大切だ。

国内での戦いと海外で戦うのとは、環境が相当異なる。条件がいいと本来のプレーができても、条件が悪いと苦しい戦いになる。つまり、悪条件を苦にしない「たくましさ」を身につけることだろう。克服できなければ、差は縮まらない。日本サッカーがどんな手を打ってくるか、注目したい。

このことは何もサッカーに限ったことではない。オリンピック出場が悲願のハンドボール界でも同じことが言えるだろう。悪条件下でたくましくプレーが出来るか。解決にはきびしい戦いを数多く経験することだろう。追い詰められた中で、自分たちの力を出し切るにはどうするかを体験することだろう。

また「日本の武器」をどう作り上げていくかだ。日本人の敏しょう性を生かした「スペースを突く」プレーを完成させるのも一つだろう。状況判断にもっと磨きをかけることも必要。チームの方針に基いた「個の力」のレベルアップが土台にあるのは言うまでもない。

また、各カテゴリーを任された指導者が世界の舞台を肌で感じることは欠かせない。オリンピックや世界選手権など大舞台の雰囲気を知っているかどうかはマネージメントには大切な要素ではなかろうか。すべては「ロンドン」のためである。

第11回男子ジュニアアジア選手権（2009WC予選）



日本、残念ながら８位に終わる

団長　高田 日呂美

1．はじめに

大会は2008年7月25日（金）～8月5日（火）まで、ヨルダンの首都アンマンのファイサル体育館で開催された。当初シリアのダマスカスで開催される予定であったものが急きょ変更されたものである。出場国は13ケ国で日本は役員4名、選手16名で参加した。7月18日からナショナルトレーニングセンターでの直前合宿を経て、21日に出発しエジプトのカイロを経由してアンマンに到着した。試合は予選ラウンド２位で決勝ラウンドに進んだが３敗して順位決定戦に廻り、８位という結果に終わり世界選手権への切符は残念ながら手にすることはできなかった。大きなケガや故障者もなく大会を終えることができたが、選手はもとより、田中監督、ローランドコーチともども口惜しい思いと貴重な体験を今後に生かしていくことを心に誓った。

2．試合結果

▼予選ラウンド

日　本　33（15－15、18－17）32　イラク

【得点者】信太8，小室7，光武6，仁平5，小川3，笠原2，時村・山下1

日　本　36（16－15、20－18）32　UAE

【得点者】信太9，小室7，時村4，光武・仁平・笠原・山口3，植垣2，坂・今元1

韓国　46（25－16、21－18）34　日本

【得点者】信太・光武7，仁平・時村5，小室・植垣4・今元・小川1

▼決勝ラウンド

クウェート　41（17－15、24－16）31　日　本

【戦評】日本は今大会初の４－２ディフェンスで、クウェートのオフェンスのリズムを崩すディフェンスシステムで挑んだ。立ち上がり、クウェートの攻撃を狙い通り不利な位置から単発シュートを打たせるが、日本も速攻のシュートミスなどもあり前半６分で１対２のロースコアで試合が進む。日本は信太のロング・ミドルシュート、時村のステップシュートなどで９分に４対４の同点に。完全に的を絞ったディフェンスとGK玉城のファインセーブで試合は一進一退の展開となるが、前半25分過ぎ、ディフェンスの今元の退場でクウェートに連続得点を許し、前半は15対17と２点差で折り返す。

後半立ち上がり、日本のシュートミスによりクウェートに３連続得点を許す。10分には20対26と徐々にクウェートペースになる。その後も日本はパスキャッチのミスが続き、クウェートに勢いを与え23分には26対35と９点差となる。クウェートの退場から得点は取るが、日本もディフェンスでマークミス等から得点を許し31対41で敗れた。オフェンスでのテクニカルミス、シュートミスが敗因であった。

【得点者】信太１１、時村５，光武４、山下・今元・成田３、仁平２

イラン　41（20－12、21－19）31　日　本

【戦評】前半立ち上がり、イランボールで、日本は６－０ディフェンスでスタート。先制点を取られるが、日本も仁平のミドルシュートで得点。イランは今大会１番大きいチームでバックプレーヤーにいいシューターが揃っているため、日本は６－０ディフェンスではあるが、積極的に前に出るディフェンスで臨む。相手の攻撃を守るが、日本も攻撃でミスがあり、なかなか加点することができないまま10分、２対４となる。その後も攻撃でのイージーミスによりイランに速攻、ロングシュートと連続で決められ点が広がる。日本はオフェンスで笠原を投入、笠原の２連続得点、光武のサイドシュートと連続得点を挙げディフェンスも４－２ディフェンスに変更しリズムを変える。しかしオフェンスでのイージーミスの連発でイランに速攻、セットでサイドによる得点で前半12対20で折り返す。後半、日本は５－１ディフェンスから積極的に速攻を狙うも、イージーなキャッチミス、パスミスとノーマークシュートミスで得点ができないまま、イランに得点を許し９分には15対25の10点差となる。その後も流れは変わらず31対41の10点差で敗退した。テクニカルミス、シュートミスが目立ち、課題の多く残った試合であった。

【得点者】時村7，信太5，小室・光武4、笠原3，仁平・坂・山下２植垣・小川１

ヨルダン　33（15－11、18－19）30　日　本

【戦評】前半、ヨルダンボールでスタート。日本はヨルダンの右45度のロングシュート、センターの１対１を警戒し、５－１ディフェンスでスタートする。しかしイラン戦に続き立ち上がりオフェンスでミス、シュートミスの連続で得点ができず、逆にヨルダンに速攻、カットインを許し０対４となる。ようやく８分過ぎに信太のミドルシュートが決まる。その後、時村のミドルシュートで攻撃にリズムができてきた所で、日本はディフェンス今元の２分間退場となり、その

間に相手のミドルシュート、速攻で連続失点。前半を11対15と4点差で折り返す。

後半オフェンスでのリズムを変化させるため、センターで東江を投入。東江の投入により攻撃にリズムができ、東江からのパスをサイド山口がポストで受け得点。東江のミドルシュート、山下のサイドシュートと攻撃にリズムができてきた。20分過ぎにヨルダンの7mスローをGK玉城が止め、東江の速攻、信太のカットインなどで24分、26対27の1点差に。しかしその後ディフェンスで退場者が出たところでヨルダンに連続得点を許し、最後までマンツーマンディフェンスをしたものの、30対33で敗退した。

【得点者】時村10，山下・信太5，東江4、光武2、仁平・笠原・山口・小川1

▼7－8位決定戦

バーレーン　34（15－14、19－17）31　日　本

【戦評】前半、日本ボールでスタート。バーレーンの変則5－1DFに対し左45度・笠原のミドルシュートで得点。日本は5－1DFで守るがバーレーン両サイドに得点を許す。日本は攻撃でのミスが多くなかなかリズムを掴めない。また、DFで退場者が出ている間にバーレーンに得点され3点差に。10分過ぎGK久保のセーブから小室の速攻、信太のミドルシュートで連続得点。13分には時村の7mスローで6対6の同点に。15分過ぎには成田のカットイン、植垣の速攻で8対6と逆転するが再びOFでミスが連続して発生し、バーレーンに速攻を許し逆転される。

後半立ち上がり、小室の速攻で得点するも、今元の退場中にバーレーンの連続得点を許し2点差に。その後、時村のポスト、今元の速攻で同点に追いつき、GK玉城のセーブから植垣の速攻で再逆転。しかしまた日本に連続してミスが発生。バーレーンに退場者が出るも、相手が5人の際にノーマークシュートをミス。その間にDFでマークミスが発生し人数が少ないバーレーンに連続得点を許す。その後も無理な体勢からシュートを撃たされ、バーレーンに速攻を許す。18分過ぎに光武、成田、信太と3連続得点するも要所でOFミスが発生し点差が縮まらない。その後、日本も得点はするが時間がなく31対34の3点差で終了。この試合、攻撃時のミスが多く、勝てる試合を自分たちで逃してしまった。

【得点者】時村6，今元5，信太・植垣4，小室・成田3，光武・笠原・坂2

3．総　評

すべての試合で30点以上得点しているが、それ以上に失点をしている試合が多い。イージーミスから速攻で失点する場面が多く、韓国戦では6割がこの失点であった。また、アラブ各国との試合ではディフェンスの弱さを露呈した。中途半端な間合いでカットインを止められず、弱い当たりをかわされてシュートされる場面が多かった。試合開始直後と後半開始直後に失点することが多く、以後の展開だけでなく試合の勝敗に大きな影響を与えていた。

選手名簿

役職	名前	所属
団長	高田　日呂美	（財）日本ハンドボール協会
監督	田中　茂	（財）日本ハンドボール協会
コーチ	Nemes Roland	（財）日本ハンドボール協会
トレーナー	河野　公昭	（財）日本ハンドボール協会

番号		名前	所属	最終出身校
1	GK	久保　侑希	筑波大学	大分国際情報高等学校
12	GK	玉城　聖也	日本体育大学	興南高等学校
2	CP	小室　大地	日本体育大学	藤代紫水高等学校
3	CP	光武　純	日本体育大学	法政大学第二高等学校
4	CP	仁平　昌利	早稲田大学	法政大学第二高等学校
5	CP	笠原　謙哉	東海大学	聖光学院高等学校
6	CP	時村　浩幹	大阪体育大学	小松明峰高等学校
7	CP	坂　洋明	法政大学	藤代紫水高等学校
9	CP	山下　和樹	大阪体育大学	小林工業高等学校
11	CP	信太　弘樹	日本体育大学	藤代紫水高等学校
13	CP	今元　勇輝	中部大学	那覇西高等学校
14	CP	成田　幸平	大阪体育大学	洛北高等学校
17	CP	植垣　貴志	大阪体育大学	大阪体育大学浪商高等学校
18	CP	東江　太樹	日本体育大学	那覇西高等学校
19	CP	山口　博之	筑波大学	熊本国府高等学校
20	CP	小川　俊	日本体育大学	北陸高等学校

4．大会順位

①クウェート、②イラン、③カタール、④韓国、⑤ヨルダン、⑥サウジアラビア、⑦バーレーン、⑧日本、⑨中国、⑩UAE、⑪ホンコン、⑫インド、⑬イラク

※1位クウェートと2位イランが世界選手権の出場資格獲得

5．審判、管理、運営など

①大会の運営はスムーズに行われたが、大会プログラムが作成されておらず他国の情報などが得られなかった。

②試合の結果などの情報が手に入りにくく、情報の周知と広報の手段に欠けていた。

③審判8ペアーの笛に多少の差がみられたが、全体として特に不公平と見られる笛は無かった。

④審判はすべてアラブ系であり、9人のTDのうち東アジアからは日本の後藤氏一人だけなのは淋しい限りであった。

⑤試合会場のファイサル体育館は空調設備もよく施設が整っていた。また練習会場も毎日1時間程度確保された.

⑥ヨルダン戦を中心に決勝、準決勝などがTV中継された。



第２回
世界女子ユース選手権

開催期日　2008年7月11日（金）～7月20日（日）
開 催 国　スロバキア・ブラティスラバ

団長　竹野 奉昭

団長	竹野　奉昭	（財）日本ハンドボール協会
ヘッドコーチ	繁田　順子	（財）日本ハンドボール協会
コーチ	岡本　大	（財）日本ハンドボール協会
トレーナー	小西　達也	凛んぐ

	名前	所属	出身
1	翁長和佳子	大阪教育大学	陽明高等学校
2	飯田菜々栄	ソニーセミコンダクタ九州	四天王寺高等学校
3	川井望未	北國銀行	神戸星城高等学校
4	佐々木莉紗	不来方高等学校	北陵中学校
5	陣野　瞳	栃木商業高等学校	大平南中学校
6	加須屋朝緋	小松市立高等学校	御幸中学校
7	松尾祐依	那珂川町立福岡女子商業高等学校	花畑中学校
8	原　希美	宮崎学園高等学校	延岡中学校
9	川俣ゆかり	蒲生高等学校	重富中学校
10	鬼澤理紗	名古屋市立向陽高等学校	御幸山中学校
11	安倍千夏	不来方高等学校	松園中学校
12	松村杏里	佼成学園女子高等学校	東久留米中学校
13	網谷涼子	飛騨高山高等学校	日枝中学校
14	辰谷春奈	暁学園高等学校	西笹川中学校
15	中村光代	文大杉並高等学校	町田南中学校
16	白石さと	四天王寺高等学校	郡山第一中学校

第２回世界ユース選手権（1990年以降生まれ）は2008年7月11日から7月20日まで1993年チェコスロバキアから分離独立したスロバキアの首都ブラチスラバで開催された。

アジアから日本・韓国・カタール・香港が出場した。スロバキアを除く全チームがシティーホテルに宿泊した。試合会場は２箇所用意され① 14:00 ② 16:00 ③ 18:00 ④ 20:00の時間帯に行われた。予選リーグの結果は下記の通り。

Aグループ・RUS・DEN・NED・PUR
Bグループ・KOR・SVK・TUN・QAT
Cグループ・SRB・ESP・ARG・JPN
Dグループ・FRA・ANG・BRA・HKG

16チームの地域・国が４グループに分かれ総当たり戦で日本はCグループの４位で、下位リーグ（13位から16位）に臨んだ。ゲームの翌日にはチーム別の棚に結果が配分された。内容は①チームの個人別（ポジション別）シュート、②ランニングスコア、③得点ランキング等、そして、VTRが全試合貸し出しされた。

この大会はRUS・SRBの技術が特出している。SRBはポストプレヤーに185㎝90㎏の大型の選手で速攻にも走るしDFの要として活躍していた。また、右45°に長身の左腕とポストのコンビ・左45°にもロングシューターとバランスのとれたチームであった。

RUSは180㎝以上が９名・小型でその道のスペシャル選手が攻防に他チームより抜きん出ていた。特に目立ったのは、大型チームの中でRUS（No4）サイドシューター、そして７mの確率が100%である。上位チームはヨーロッパ勢に占められ① RUS ② SRB ③ DEN ④ FRA ⑤ ESPそして⑥ KORが入った。日本は残念ながら13位である。

今回出場した日本ユースの選手達は個々の攻防技術は優れているがコンビネーションに欠ける。ボールを持ったらゴールを目指すことは良いことだが、他にノーマークあるのに無理してシュートしている感がある。長身選手が多い外国選手を相手にパスミス・シュートミスが目立った。

今後の課題としては個人技術を強化することと［1対1・2対2 ‥3対3］の基本的な攻防を理解する必要があるし、世界の長身選手と戦うには日本特有のコンビネーションの確立であると思う。韓国チームの外国選手に対しての攻防をみて感じた。

その他、全国から優れた選手を選出されていることは間違いないが、合宿日数にも問題があるような気がする。

日本チームはフェアプレー賞を受賞する。

戦　評

▼予選ラウンドグループC

アルゼンチン　30（14－15、16－11）26　日　本

〈戦評〉アルゼンチンが現地入りして調子を上げているとの情報に引き締めて試合に臨む。開始30秒、加須屋が技ありの右サイドで先取。１分後、飯田が同じく右サイドで連取するが、高さのあるポストと速攻で３連取される。しかし、この日、好調の飯田と松村の両サイドが良く走り、連続４得点で10対７とリードしたところで、相手ベンチがタイムアウト。これで息を吹き返しアルゼンチンは左腕エース９番Mendoza（170cm）と10番Crivelli（175cm）の２人が６連続得点。逆に、３点リードされ追いかける日本。ここで、GK佐々木の好セーブに助けられ、良く我慢し、24分過ぎから加須屋が１対１、翁長ディスタンス、松村速攻、飯田２連取と５得点し、15対14で折り返す。

後半スタートは、松尾がフェイントから得点するが、その後、イージーミスが続き得点につながらず、流れが相手に。また、５－１DFを攻めあぐね、立て続けに逆速攻で連取され、１分に17対19と２点リードされる。このまま離されず、終盤に逆転とのベンチの指示も届かずエースの９番に打ち込まれ、逆に３点差、４点差と広げられ、ゲームセット。７mスロー３本を外す等、イージーミスが命取りとなり、流れに乗り切れず、残念な結果となった。

[日本の出場選手及び個人得点＝ () 内の数字] GK佐々木、川井（1）、飯田（6）、加須屋（2）、翁長（4）、松尾（3）、辰谷、原（2）、松村（6）、安部、陣野、GK網谷、鬼澤（1）、川俣（1）

セルビア　34（17－12、17－11）23　日　本

〈戦評〉昨日、１点差でスペインに逆転勝ちしたセルビアをリズムに乗らせないよう、DFでのアタックを確認し臨む。開始

1分、加須屋1対1で先取。DFも翁長、原が全力でアタックをかけ全員で守る。2点目も辰谷が自信を持って7mを決める。7分まで4対2とリードするが、巨体シビジック（185cm、90kg）の速攻とポストで一気に5失点し、4対7とリードされる。1点が欲しい日本はフォーメーションを仕掛けるが、ゴールポストが遠く16分5対12と苦しい展開になる。DFを立て直すことに集中！のベンチの指示に安部も全身で守り、原、川俣の速攻へつなぎ、12対7で折り返す。

後半に入るとポストシビジックの重さがずっしりと乗りかかる。必死で踏ん張るが、今度は交替した左腕Zivkovic（180cm、60kg）に上から打ち込まれ、10分過ぎに15対22。相手ポストが退場の間に松尾、加須屋の1対1で加点し、この日絶好調の川俣がGK足元に打ち込み20分で19対28。コートに戻ったシビジックに次々と決められるが、終盤、捨て身のDFでリズムをつかみ、翁長、川俣の速攻で加点。健闘するものの23対34でゲームセット。体格差をまざまざと見せつけられたゲームだった。

なお、今大会、各ゲーム毎に贈られるベストプレーヤー賞は、アルゼンチン戦が飯田、今日は加須屋だった。

［日本の出場選手及び個人得点］GK佐々木、川井、飯田（1）、加須屋（5）、翁長（2）、松尾（3）、辰谷（2）、原（2）、松村（2）、安部、陣野、GK網谷、鬼澤、川俣（6）

スペイン　23（11－8、12－11）19　日　本

〈戦評〉予選リーグ3戦目の相手は今大会最長身者Chavez（192cm、77kg）、Palmer（190cm、63kg）を揃えるスペイン。開始30秒、川俣のカットインを飯田につなぎ先取点。しかし、すぐさま左腕Gasullaに右サイドから決められる。アグレッシブなDFが機能し、飯田、川俣と速攻で加点。しかし、相手の5－1DFに対応できず、連続失点し、17分6対8とリードされたところで、タイムアウト。直後、翁長が走り7対8。相手1人退場の絶好のチャンスを生かし切れず、逆に2失点し、8対11で折り返す。大事なところで強気になれないチームに叱咤激励。

後半、GK佐々木の好セーブからDFも機能し、翁長、原が決め連続4得点で15対17と2点差に詰め寄ったのが13分。その後も好調GK佐々木のキーピングで危ない場面をしのぐ。安部、退場の不利な時にも飯田が意地の右サイドを決め、16対17、1点差とする。しかし、スペイン186cm、左腕Manautに2連続決められる。この場面も佐々木の好セーブに助けられ、原、翁長がよく走り20分、19対19とスペインをとらえた。

勝負どころラスト10分。攻撃のイージーミスや集中力が持続せず、連続4失点し、19対23でゲームセット。決定打の弱さが露呈し、勝ちゲームをものにできなかった不本意なゲームであった。

［日本の出場選手及び個人得点］GK佐々木、川井、飯田（5）、加須屋（1）、翁長（5）、松尾（1）、辰谷（2）、原（3）、安部、陣野、GK網谷、鬼澤、川俣（2）

▼下位順位決定ラウンド　2組

ブラジル　31（16－10、15－14）24　日　本

日　本　38（20－4、18－6）10　香　港

〈戦評〉下位リーグ2戦目は、同じアジア代表の中国香港。格下の相手ではあるが、次につながるゲームをと気を引き締めて臨む。開始より、GK佐々木の安定したキーピングから松尾、飯田、原と速攻がよく決まり、15分9対1としたところで、メンバーチェンジ。上級生を温存し、若手でチャレンジ。早々鬼澤が右サイドから飛び込めば、負けじと松村も左サイドで決める。陣野や安倍も思い切りのよりプレーで次々と得点を重ね20対4で折り返す。

後半に入っても攻撃の手を緩めず。久しぶりに左45度にあがった原が生き生きとしたプレーを見せ、立て続けにロングを決める。10分には交替した翁長、川井、辰谷、川俣が切れのあるプレーを見せ、18分には28対8と大量リードする。守っても落ち着きを取り戻した網谷がアグレッシブなキーピングとスローで鬼澤、松尾へとつなぐ。加須屋が38点目をたたき出し、38対10でゲームセット。

5戦目にして初めての勝ち星を全員得点で飾った。ベストプレーヤー賞は原。

［日本の出場選手及び個人得点］GK佐々木、川井（1）、飯田（3）、加須屋（4）、翁長（1）、松尾（6）、辰谷（1）、原（8）、松村（4）、安部（3）、陣野（1）、GK網谷、鬼澤（3）、川俣（3）

▼準決勝

ロシア　28（13－12、15－13）25　フランス

セルビア　28（15－5、13－12）17　デンマーク

▼15－16位決定戦

香　港　34（16－6、18－12）18　カタール

▼13－14位決定戦

日　本　44（22－13、22－9）22　プエルトリコ

▼11－12位決定戦

アルゼンチン　39（16－20、23－13）33　チュニジア

▼9－10位決定戦

オランダ　31（18－12、13－14）26　ブラジル

▼7－8位決定戦

スロバキア　27（12－9、15－9）18　アンゴラ

▼5－6位決定戦

スペイン　31（12－15、19－13）28　韓　国

▼3位決定戦

デンマーク　24（12－10、12－11）21　フランス

▼決　勝

ロシア　27（12－16、15－6）22　セルビア

最終順位

1位	ロシア	9位	オランダ
2位	セルビア	10位	ブラジル
3位	デンマーク	11位	アルゼンチン
4位	フランス	12位	チュニジア
5位	スペイン	**13位**	**日　本**
6位	韓　国	14位	プエルトリコ
7位	スロバキア	15位	香　港
8位	アンゴラ	16位	カタール

第3回男子ユースアジア選手権（2009WC予選）

開催期日　2008年7月11日（金）～7月22日（火）
開 催 国　ヨルダン・アンマン

役職	氏名	所属先
団長	志々場　修二	（財）日本ハンドボール協会
ヘッドコーチ	滝川　一徳	（財）日本ハンドボール協会
コーチ	阿部　直人	（財）日本ハンドボール協会
コーチ	岩本　明	（財）日本ハンドボール協会
トレーナー	関沢　計人	せきざわ接骨院

	氏名	所属先
1	木村　昌丈	藤代紫水高等学校
2	糟屋　周穂	瓊浦高等学校
3	杉本　拓哉	明治大学
4	久保　龍太郎	香川中央高等学校
5	池辺　大貴	藤代紫水高等学校
6	高田　剣	明星高等学校
7	安松　泰助	瓊浦高等学校
8	平子　卓人	北陸高等学校
9	牧山　仁志	法政大学第二高等学校
10	植垣　健人	大阪体育大学浪商高校
11	会田　亮祐	藤代紫水高等学校
12	藤江　恭輔	北陸高等学校
13	末木　賢志	駿台甲府高等学校
14	岡山　健太	愛知高等学校
15	川端　勝茂	長崎日本大学高等学校
16	元木　博紀	藤代紫水高等学校

▼予選リーグAグループ

カタール　45－25　インド
クウェート　35－27　イラク
韓国　44－30　ﾁｬｲﾆｰｽﾞﾀｲﾍﾟｲ
ﾁｬｲﾆｰｽﾞﾀｲﾍﾟｲ　30－24　イラク
クウェート　25－23　カタール
韓国　60－19　インド
カタール　38－18　ﾁｬｲﾆｰｽﾞﾀｲﾍﾟｲ
クウェート　48－25　インド
韓国　33－23　イラク
カタール　26－19　イラク
クウェート　32－30　韓国
ﾁｬｲﾆｰｽﾞﾀｲﾍﾟｲ　37－30　インド
カタール　39－31　韓国
クウェート　37－33　ﾁｬｲﾆｰｽﾞﾀｲﾍﾟｲ
イラク　27－22　インド
【順位】①クウェート②カタール③韓国④チャイニーズタイペイ⑤イラク⑥インド

▼予選リーグBグループ

イラン　35－31　バーレーン
サウジアラビア　34（13－18、21－15）33　日本
【戦評】予選リーグの初戦、最重要ゲームと位置づけ、チーム団結して臨んだ。スターティングメンバー全員、堅くなることなく良いスタートがきれた。前半、杉本のカットインによる7mスローを平子が確実に決め先制。その後、会田、川端、牧山を前におく3－2－1ディフェンスが機能し、藤江、植垣らの速攻につなげ5点リードで前半を折り返した。

後半もアタックディフェンスが機能し、また失点後のクイックスタートによる得点により点差は縮まることなく、残り15分、30対24と6点リードする。しかしここからサウジアラビアの強引な1対1による退場（高田、牧山）が続き、残り3分で32対32と追いつかれる。さらに右サイドからのシュートで失点。32対33と逆転される。残り1分をきり日本はディフェンスで守るがリバウンドをとられ34点目をとられ勝負が決まった。GK糟谷を中心にディフェンスが機能したが、結果を出せずに第1戦を終えた。
【得点者】杉本・藤江7、平子・会田・川端4、植垣3、元木2、高田・牧山1

サウジアラビア　25－22　ヨルダン
バーレーン　27－26　ヨルダン
イラン　34（16－11、18－17）28　日本
【戦評】予選リーグ2試合目、今大会最も大きい（平均身長190cm）イランとの対戦。前半、相手のパワフルな1対1に対し、果敢にコンタクトしにいくも押し込まれ、カットイン、

7m スロー等で5連取される。日本もスカイプレー（川端）で得点し、さらに植垣、元木らのサイドシュートで応戦する。GK 木村の好セーブで粘るが、残り 30 秒 10 対 16 となる。残り 1 秒で会田のフリースローから直接ステップシュートが入り、11 対 16 で折り返す。

後半もアグレッシブに 11m でコンタクトするなど、ディフェンスを再徹底し臨んだが、圧倒的に体格で上回るイランの強引なプレーを止めることができず、点差が縮まらない。日本も平子の 7m スロー、牧山のミドルシュート・カットイン、藤江の速攻等で得点するが、スタートの 5 点を縮めることができず 28 対 34 で敗れた。予選リーグ残り 2 試合、結束して臨みたい。

【得点者】平子 7、藤江 5、牧山 4、植垣・元木 3、杉本・池辺 2、会田・川端 1

イ　ラ　ン　39 － 32　サウジアラビア
バーレーン　33（19 － 17、14 － 15）　32　日　本

【戦評】負けたらセミファイナル進出が絶たれる重要な試合。日本は背水の陣で臨んだ。開始 30 秒、54 秒と植垣の速攻で 2 連取し、好スタートをきる。対するバーレーンはサイドへのとばしパスを有効に利用し、サイドシュートで応戦する。日本は元木のサイドシュート、速攻でテンポよく加点するが、シュートミスからの速攻で失点も多く 16 対 19 で折り返す。

後半に入り、植垣の速攻、岡山のサイドシュート等ですぐに追いつく。さらに途中出場の久保のカットイン（2 連取）で残り 10 分をきり 2 点リードする。しかしここからポストシュート、7m スローと相手の GK に阻まれる間に 3 連取され 31-32 と逆転される（残り 3 分）。さらに残り 1 分、33 点目をサイドからたたきこまれ、試合を決定づけられた。初戦に続き 1 点差の痛い敗戦であった。

【得点者】植垣 9、元木 5、平子 4、高田・岡山 3、久保・池辺 2、安松・牧山・藤江・川端 1

日　本　26（15 － 12、11 － 9）21　ヨルダン

【戦評】予選リーグ最終戦、地元ヨルダンとの試合。約 1,000 人の地元応援の中、完全アウェイで試合は始まった。開始 10 分、オフェンスで攻めきれない日本であったが、会田・牧山・川端の粘り強いコンタクトで失点をおさえる。その後、ディフェンスからの速攻で藤江、サイドから元木、7m スローで平子らの得点で 15-12 と逆転して前半を折り返す。

後半に入っても集中力が切れず、6 人全員が足を止めずにディフェンスし、そして GK 木村の好セーブ、会田の身体を張ったルーズボール死守等で失点を最小限に防ぐ。オフェンスでは藤江のカットイン、川端のポスト、杉本のカットイン等で加点し、26 対 21 で初勝利を飾った。後半 30 分の日本の集中力、勝利への執着心、必死になってボールへくらいつくディフェンスは素晴らしかった。また中東（ヨルダン）のエキセントリックな応援、盛り上がりの中、心乱さずプレーしたチームの結束も評価できるゲームであった。

【得点者】藤江 11、平子 5、池辺 3、杉本・元木 2、牧山・植垣・川端 1

バーレーン　30 － 27　サウジアラビア
イ　ラ　ン　27 － 22　ヨ ル ダ ン

【順位】①イラン②バーレーン③サウジアラビア④日本⑤ヨルダン

▼準決勝
クウェート　33 － 29　バーレーン
カ タ ー ル　28 － 27　イ　ラ　ン

▼9 － 10 位決定戦
ヨ ル ダ ン　31 － 22　イ　ラ　ク

▼7 － 8 位決定戦
日　本　31（17 － 13、14 － 17）30　ﾁｬｲﾆｰｽﾞ ﾀｲﾍﾟｲ

▼5 － 6 位決定戦
韓　　国　44 － 37　サウジアラビア

▼3 位決定戦
イ　ラ　ン　31 － 25　バーレーン

▼決勝戦
クウェート　31 － 26　カ タ ー ル

最終順位

1 位　クウェート
2 位　カタール
3 位　イラン
4 位　バーレーン
5 位　韓　国
6 位　サウジアラビア
7 位　日　本
8 位　チャイニーズタイペイ
9 位　ヨルダン
10 位　イラク
11 位　インド

平成20年度
第11回
ハンドボール
研究集会
実施報告



表記研究集会が下記のように実施されました。

1．期　日

平成20年8月5日（火）、6日（水）

2．場　所

東京都世田谷区佼成学園女子中学高等学校会議室、講堂（体育館）

3．実施趣旨

平成20年3月28日に改訂告示された小学校新学習指導要領では、5・6年生のボール運動が現行の種目の列挙を改定して3つの型に分けられ、多彩な運動が選択できるようになった。すなわち、内容の取扱いの中で、「ゴール型はバスケットボール及びサッカーを、ネット型はソフトバレーボールを、ベースボール型はソフトボールを主として取り扱うものとするが、これらに替えてそれぞれの型に応じたハンドボールなどのその他のボール運動を指導することもできるもの」とされ、さらに「学校の実態に応じてベースボール型は取り扱わないことができる」とされた。

すでにハンドボールについては、従前の指導要領の全面実施によって、多くの授業実践が報告されるようになってきた。

そしてほぼ10年間に渡る学校体育ハンドボール検討委員会の活動の成果として、ハンドボールは子どもたちの投能力を中心とした体力・運動能力の向上に適していることに加えて、他のボール運動より教材づくりや戦術学習が容易であること。さらに、小学1年生から6年生までの児童にとって取り組みやすく、楽しくできることなど、独自の諸特性をもっていることが明らかにされている。

従って今回の改訂を受け、走・跳・投のバランスのとれたハンドボールの教材としての価値がさらにアピールされていくとともに、低・中学年のゲーム領域との関連性を考慮した一貫指導体系が確立されていかねばならないという必要性に迫られている。

本研究集会では、ハンドボールの魅力や諸特性に対してさらに認識を深めると同時に、子どもたちの発育・発達に見合ったゴール型教材としてのハンドボールの指導体系の構築を目指した内容について研修する。

4．主催など

主　催　（財）日本ハンドボール協会
主　管　東京都ハンドボール協会
後　援　文部科学省　東京都
対　象　小学校・中学校および高等学校教諭
　　　　教員養成大学学生・大学院生および教員
　　　　地域スポーツ指導者
　　　　（財）日本ハンドボール協会J級指導員等
協　力　東京都立国立高校ハンドボール部
　　　　筑波大学附属高校ハンドボール部、㈱モルテン

5．実施内容



【8月5日（火）】

受　付　12：00 ～ 12：30

開会式　12：30 ～ 12：50

講　義　12：50 ～ 13：50

講師:同志社大学スポーツ健康科学部教授　渡邉　彰（前文部科学省教科調査官）「学習指導要領改訂とこれからの体育」

研究発表　14：00 ～ 15：10

①根木地 淳（岩手県盛岡市立北厨川小学校）「運動有能感を高めるハンドボールの授業作り」

②淺川 泰裕（東京都千代田区立富士見小学校）

「みんなのハンドボールー Choice&Challenge から始まる目当て学習の基礎作りー」

③渡邊 和弘（埼玉県さとえ学園小学校）「明快　カラーコートハンドボール」

④月本 直樹（鳴門教育大学附属小学校）

「ゲームに対する期待を持たせ、それを実現させるハンドボールの実践ー十分な運動量の確保を通してー」

⑤澤田　浩（長野県佐久市立泉小学校）

「ゲート型ゴールによるハンドボールの実践ー『ザ・シューター』コートやボール・ルールを工夫してー」

⑥大西 武三（筑波大学体育科学系）「小学生のジャンプシュートの指導法」

実技研修　15：30 ～ 17：00

講師：東京未来大学　藤井 喜一（前東京学芸大学附属世田谷小学校副校長）「シュートゲームからゴール型ゲームへ」

【8月6日（水）】



受　付　 8：30 ～ 9：00

授業提案　9：00 ～ 11：00

筑波大学附属小学校高学年「ハンドボール」授業

東京学芸大学教育学部附属世田谷小学校高学年「ハンドボール」授業

講　義　11：00 ～ 12：00

演者：日本体育大学大学院教授　高橋健夫

「学習指導要領の改訂とボール運動の授業づくり」

閉会式　12：00 ～ 12：15



6．まとめ

実施趣旨にもあるように、学習指導要領の改訂により、小学校において体育の授業でハンドボールが取り上げられる機会が、今後増えてくることが考えられます。小学校の先生方に、教材として指導しやすく、しかも生徒の諸能力向上に資するハンドボールをもっと知っていただき、授業で積極的に取り上げられるよう取り組んでいます。今回で実施回数が 11 回を数え、新たな一歩ととらえてより内容の充実した会にしていきたいと担当者一同考えています。今回、突然の雷雨の中、参加していただいた先生方に感謝し、また会場を提供していただいた佼成学園女子中学高等学校の石川先生をはじめとした関係者の方々にお礼を申しあげつつ、来年度よりよい会運営となることを祈念し、まとめとします。

協会だより

平成20年度第1回理事会

日　時：平成20年6月14日（土）
　　　　13:00～15:30
場　所：ナショナルトレーニングセンター
　　　　研修室（1）（2）
出席者（敬称略、名簿順）
［理事］
渡邉佳英、市原則之、西窪勝広、兼子　真、角　紘昭、蒲生晴明、江成元伸、大橋則一、田中　茂、大畑孝広、福地賢介、森安昭雄、奥田政俊、宮元章次
［監事］
川上整司、荘林康次、高田日呂美
［特任副会長］
鶴保庸介
［参事］
古屋正俊、小西博喜、武田節夫、杉本眞一、堀美和子、近久紀人、笹倉清則、本間誠章、坂本静男、志々場修二、萩原宏人、大村　久（稲生茂代理）、阿部和代（佐藤公美代理）
欠席者（敬称略、名簿順）
［理事］
川上憲太、伊藤宏幸、島田房二（委任状提出有り）、高山重雄
事務局（羽田）

以上、出席理事14名、委任状出席3名、出席監事3名、出席特任副会長1名、出席参事11名、参事代理2名、事務局1名

議事録署名人　渡邉佳英議長、兼子　真常務理事、奥田政俊理事

＜理事会成立の確認＞

定刻に開会し、兼子総務担当常務理事より、理事現在数18名中委任状出席を含め17名の出席にて3分2以上の出席があり定足数を満たしており、本理事会が成立していることが報告された。

次に議長の選出が行われ、寄附行為第25条、第3項に基づき、渡邉会長が議長となった。

＜渡邉会長より挨拶＞

昨年12月以来、北京オリンピック再予選問題があったが、先日男子の試合が終わった。残念ながら北京オリンピックへの出場の道は断たれたが、女子がポーランドに勝ったり、男子がこれまで以上に欧州勢に健闘するなど、内容は良かった。しかし、世界レベルに比べるとまだまだ地力不足であることを認識させられた。一方で、一般の方々から多くの声援を頂き、選手の大きな力になったと思う。この盛り上がりを継続させ、次のロンドンオリンピックにはぜひ男女とも出場できるように、そのために何をするべきかを皆さんと共に考えていきたい。アジア連盟との間の罰金問題も残っており、今月中に解決しないと7月のジュニア予選など、大会との関係でさらに難しくなる懸念もある。

山下副会長が春の叙勲で叙勲された。心からお祝いを申し上げると共に、30万円のご寄付を頂いたことをご報告致します。

＜鶴保特任副会長より挨拶＞

北京オリンピック予選については非常に惜しい状況であった。先日の評議員会では40名以上の出席があるなど、これまでにない盛り上がりとなっている。ますますの発展を祈念するとともに、今後ともお手伝いをしていきたい。

＜議事録署名人の選出＞

続いて、渡邉議長より議事録署名人の指名が行われ、議長、兼子真常務理事、奥田政俊理事が指名され、満場一致で承認された。

審議事項

1．平成19年度事業報告書（案）について

各担当常務理事より平成19年度の事業について、1）普及指導、2）競技、3）国際、4）審判、5）強化、6）機関誌、7）企画、8）広報、9）財務会計、10）日本リーグ、11）総務、12）10万人会、13）マーケティングの順に概要が説明された。

審議の結果、全員異議なく、本件は可決承認された。

2．平成19年度決算書（案）について

渡邉会長より、1月末に行われた北京オリンピックアジア予選再戦における広告協賛料についてIHFとの合意が得られていないため、今回提出の決算書にはIHFに日本協会が提示した金額を記入してあり、最終決算が確定していない旨のお詫びと、確定後に改めて報告、審議頂きたい旨のお願いがなされた。

兼子会計担当常務理事より平成19年度の決算について説明がなされた。

事業活動収入合計568,645,741円、事業活動支出合計568,819,881円、他積立金取り崩し収入、積立金支出があり、その結果次期繰越額99,591,090円となった。

川上監事より6月6日に監事3名の立ち会いで監査を行い、業務及び会計処理など適性であったことが報告された。

審議の結果、全員異議なく、本件は可決承認された。

3．平成20年度第一次補正予算（案）について

兼子会計担当常務理事より、平成20年度の決算が確定したことと一部見直しがあったことから、平成20年度第一次補正案について説明がなされた。

補正後　事業活動収入合計459,012,000円、事業活動支出合計490,474,960円、積立金取り崩し収入1,5000,000円、積立金支出1,500,000円、予備費支出1,500,000円、当期収支差額マイナス33,962,960円となり、次期繰越収支差額は65,628,130円となることが説明された。

審議の結果、全員異議なく、本件は可決承認された。

4．評議員変更について

兼子総務担当常務理事より、新潟県及び和歌山県の評議員の変更について説明された。

審議の結果、全員異議なく、本件は可決承認された。

5．強化（日本代表女子監督）について

蒲生強化担当常務理事より、次回常務理事会にて報告する旨の説明があった。

審議の結果、全員異議なく、本件は可決承認された。

6．平成19年度日本協会表彰者について

兼子総務担当常務理事より、平成19年度の日本協会表彰者について、加盟団体及び日本協会からの推薦者一覧の説明がなされた。

市原副会長より、故岡本克彰氏の推薦理由に「審判育成」とあるのは車椅子連盟の推薦理由としては適切ではない旨が指摘され、推薦理由からは削除されることとなった。

審議の結果、全員異議なく、本件は可決承認された。

7．国民体育大会功労者表彰及び日本体育協会公認スポーツ指導者等表彰について

兼子事務局長より、表彰に関連し、国体功労者表彰、日体協スポーツ指導者表彰について、表彰委員会に一任して頂きたい旨の説明がなされた。

審議の結果、全員異議なく、本件は可決承認された。

8．除外認定競技者に関する規程について

江成競技運営担当常務理事より、契約競技者の商業活動、肖像権を行使する活動に対する除外認定競技者に関する規程（案）について説明がなされた。

審議の結果、全員異議なく、本件は可決承認された。

報告事項

1．平成20年度執行部及び日本協会組織図について

兼子事務局長より、平成20年度執行部及び日本協会組織図について報告がなされた。

2．平成20年度会議日程及び平成21年度会議日程粗案について

兼子事務局長より、平成20年度会議日程及び平成21年度会議日程粗案について、説明がなされた。

市原副会長より、6月に開催される評議員会と理事会の内容はほぼ同一であり、理事の皆さんには負荷がかかっている。また、公益法人法の改正に伴い、これまで以上に出席率が厳しく問われることとなるので、平成21年度からはまとめて行ってはどうか、との提案があり、事務局にて調整することとなった。

3．公益法人制度施行にあたり

兼子事務局長より、公益法人制度の変更について説明がなされた。

市原副会長より、資料を熟読するようにお願いがなされた。

4．平成20年度国際・国内・ブロック大会日程について

江成競技運営担当常務理事より、平成20年度国際・国内・ブロック大会日程について報告がなされた。

兼子事務局長より、開催要項には個人情報が含まれているので、取扱いには注意をして頂くようにお願いがなされた。

宮元理事より、国内・ブロック大会の開催要項の作成遅れから、予選に間に合わないケースがあるため、必ず年度初めに作成して頂きたい旨提案があった。

5．北京オリンピック最終予選他について

蒲生強化担当常務理事より、北京オリンピック最終予選について報告がなされた。

6．国際（IHF、AHF）問題について

渡邉会長より、国際（IHF、AHF）問題について、AHFから罰金（US$1,000）の支払要求がきているが、CASの裁定結果が不明確であり、IHFの指示によって開催した再予選について罰金を支払う理由がないと考えている。先日、IHFムスタファ会長が来日した際に、8月に北京にてAHFアーマド会長を含め三者会談を行いたい旨の提案があったが、それ以前に開催される世界選手権予選（アジア選手権）への影響を懸念している。現在、IHF仲裁委員会もしくは仲裁裁判所への提訴を検討している。いずれにしろ、選手に本問題の影響が波及しないように最大限の努力をする。

市原副会長より、中東の笛騒動について、長い戦いになる覚悟で臨み、我々の「スポーツの尊厳が無に帰す」という主張は世論の支持を得ている。罰金を払えば済む問題かも知れないが、それでは世論の支持を得ている我々の主張を覆すことになる。JOC及びKOC（韓国オリンピック委員会）からIOCを通じて、IHFの統治力、指導力について圧力をかけることも考えている。今後も渡邊会長を中心に頑張っていく。

鶴保特任副会長より、韓国ハンドボール協会が罰金を支払ったかどうかの質問があり、市原副会長より支払っていない旨が説明された。

7．普及関係（第11回ハンドボール研究集会、ビーチ他）について

角普及担当常務理事より、第11回ハンドボール研究集会、第1回アジアビーチゲームズについて報告がなされた。

8．平成20年度競技運営に関する通達などについて

江成競技運営担当常務理事より、平成20年度競技運営に関する通達、第63回国体組合せ抽選会について及び2008年度全国大会レフェリーについてそれぞれ報告がなされた。

併せて、検定業者懇談会議事録及びトキめき新潟国体の競技会場施設の変更について報告がなされた。

9．マーケティング（壮行試合、壮行会他）について

大橋常務理事より、5/9開催の壮行試合及び5/17開催の壮行会について報告がなされた。

10．JAPAN CUP 2008について

西窪総合企画室長より、JAPAN CUP2008について報告がなされた。

11．環境委員会について

兼子事務局長より、環境委員会の設置について報告がなされた。

12．日本リーグについて

田中日本リーグ担当常務理事より、リーグ機構組織図及び行事日程について報告がなされた。

13．がんばれハンドボール10万人会について

兼子事務局長より、がんばれハンドボール10万人会の現況について報告がなされた。

14．その他

1）小西参事より、車椅子連盟の活動報告について報告がなされた。

2）川上監事より、30年ほど前から岸記念体育会館1Fにあるスポーツマンクラブに入会しているが、今や市原副会長が中心となって運営されている。また、NTCには2面のハンドボール専用コートができたり、市原副会長が東京新聞の1面に寄稿されるなど、ハンドボールを盛り上げる土台ができてきている。この盛り上がりをぜひ継続させて欲しい。

3）荘林監事より、各常務理事からの報告がなされたが、懸案事項、継続事項がたくさんある。優先順位を付けて確実に解決していくように、各方面のご協力をお願いする。

4）高田監事より、先日の壮行会に出席したが、ハンドボール経験者のタレントを起用したり、サインボールプレゼントやユニフォームの展示など、新鮮なものであった。応援してくれる年齢層も幅広くなっており、新しいやり方でファンやスポンサーを掴んでいく必要があると思う。

市原副会長より、閉会にあたり挨拶があった。

現在の姿があるのは先輩方が築いた歴史と伝統があるからであり、感謝したい。本日は東北地方で大地震があり、やむを得ずご欠席となった理事もおられるが、ご多忙の中ご出席頂き感謝する。北京予選については非常に残念な結果であり、協会の責任を問われかねない状況であると認識している。中東の笛問題が大きく取り上げられたが、やはり代表チームは強くなければならない。大きな夢を持って競技者を増やしていく必要がある。そのためには受け皿を増やす、つまり地域の活性化が必要である。また、各連盟においても活性化をはかり、競技人口の増加に寄与して欲しい。アジアビーチについても代表チームを派遣したり、連盟になれるように努力して欲しい。また、各会議や委員会活動についても活性化をはかり、みんなで考え、意見を戦わせて欲しい。

また、海外派遣の団長をお願いしている方々には、ぜひいろいろな国々の役員と接して、日本協会の考え方を披露して欲しい。先日、世界最終予選でクロアチアに行った際にも、IHFの役員でも罰金問題を知らない人がいた。もっと情報発信をしていかなければならないので、くれぐれもよろしくお願いしたい。

予定していた議案について全て終了したので、15時30分に平成20年度第1回理事会は閉会した。

スコアールーム ①

高松宮杯第49回全日本実業団選手権大会

開催期日：2008年7月30日(水)～8月3日(日)
会　場：沖縄県・奥武山総合運動公園県立武道館

【男　子】

▼予選トーナメント1回戦

琉球コラソン 32 (15－16、17－15) 31 ホンダ熊本
Honda 33 (16－7、17－14) 21 セントラル自動車
トヨタ車体 40 (18－13、22－14) 27 豊田合成
北陸電力 38 (23－7、15－9) 16 八光自動車

▼予選トーナメント2回戦

湧永製薬 36 (15－14、21－17) 31 琉球コラソン
Honda 31 (11－16、20－14) 30 トヨタ紡織九州
大同特殊鋼 30 (15－16、15－12) 28 トヨタ車体
大崎電気 38 (17－11、21－11) 22 北陸電力

▼9～12位決定戦・1回戦

ホンダ熊本 28 (15－14、13－10) 24 セントラル自動車
豊田合成 42 (20－12、22－15) 27 八光自動車

▼11・12位決定戦

八光自動車 32 (10－17、22－10) 27 セントラル自動車

▼9・10位決定戦

豊田合成 33 (15－12、18－11) 23 ホンダ熊本

▼5～8位決定戦・1回戦

トヨタ紡織九州 35 (9－10、26－15) 25 琉球コラソン
北陸電力 30 (17－14、13－14) 28 トヨタ車体

▼7・8位決定戦

トヨタ車体 43 (19－6、24－14) 20 琉球コラソン

▼5・6位決定戦

トヨタ紡織九州 28 (14－9、14－15) 24 北陸電力

▼決勝リーグ

湧永製薬 32 (18－12、14－13) 25 Honda
大同特殊鋼 28 (14－11、14－17) 28 大崎電気
大崎電気 30 (16－13、14－16) 29 湧永製薬
大同特殊鋼 26 (15－14、11－11) 25 Honda
大崎電気 35 (18－8、17－16) 24 Honda
湧永製薬 33 (16－16、17－16) 32 大同特殊鋼

▼決勝リーグ最終順位

優　勝　大崎電気　勝ち点7 (2勝1分)
2　位　湧永製薬　勝ち点6 (2勝1敗)
3　位　大同特殊鋼　勝ち点4 (1勝1分1敗)
4　位　Honda　勝ち点0 (3敗)

【女　子】

▼リーグ戦

オムロン 33 (15－9、18－12) 21 広島メイプルレッズ
北國銀行 31 (16－3、15－7) 10 香川銀行
オムロン 34 (19－10、15－11) 21 香川銀行
北國銀行 28 (14－12、14－15) 27 ソニーセミコンダクタ九州
広島メイプルレッズ 28 (14－11、14－12) 23 北國銀行
ソニーセミコンダクタ九州 32 (15－11、17－14) 25 香川銀行
オムロン 27 (14－12、13－14) 26 ソニーセミコンダクタ九州
香川銀行 26 (15－13、11－12) 25 広島メイプルレッズ
ソニーセミコンダクタ九州 30 (15－13、15－8) 21 広島メイプルレッズ
北國銀行 22 (14－13、8－7) 20 オムロン

▼決勝リーグ最終順位

1　位　北國銀行
2　位　オムロン
3　位　ソニーセミコンダクタ九州
4　位　香川銀行
5　位　広島メイプルレッズ

ドクター・水素水 ―――― 特殊セラミックTスティック

簡易型水素発生「生」水器（水素発生ミネラルスティック）

豊富な水素が水を変える！

フレンディアはJADMA（日本通信販売協会）の正会員です。

JADMA
社団法人日本通信販売協会会員

健康は毎日の飲料水から…



※本製品は改良のため予告なく仕様・デザインを変更する場合があります。



500mlのお水にドクター・水素水スティック１本を投入。
約120分後、水温21度における容存水素量0.48ppm。（当社測定値）

日本医学交流協会医療団
（ＮＰＯ認証 東京都）



当商品は認定を受けています。
http://www.drp.ne.jp/で認定確認できます。

特許公開番号：2004-41949
韓国特許登録：529006号
米国特許番号：7189330

原材料／金属マグネシウム、天然石
サイズ／18×122mm



価格／1箱3本入り 13,440円（税込み）



水の入ったペットボトルなどの容器にスティックを入れるだけ。
2リットルの水道水にこれ１本！
しかも**6ヶ月と長持ち**です。
１日2リットル作ったとして、
たったの24円と経済的。

株式会社フレンディア

〒150-0041 東京都渋谷区神南1-9-7 丸栄ビル6F
TEL：03-5728-3360 FAX：03-5728-3363
フリーダイヤル 0120-372-132（みんなに いーみず）

株式会社フレンディアのウェブサイトを併せてご覧ください。

http://www.friendear.co.jp

がんばれハンドボール10万人会「サポート会員」8月入会・継続会員

【北海道】駒林　昭三、畑中　裕　【宮　城】大河原　浩気　【福　島】影山　有理　【茨　城】大村　久　【埼　玉】沼田　彩友美、松本　隆栄、大塚　治恵　【千　葉】稙本　政子、鈴木　秀義　【東　京】佐藤　佳子、田中　和子、田中　藍、張江　真代　【山　梨】栗原　富貴子、天野　盛夫　【愛　知】笹野　邦雄、住田　泰則、星野　真由美、山下　悟史、瀬見井　勇貴、西村　香代子、鶴橋　広賢　【岐　阜】中島　明美　【大　阪】望月　滋乃、舟崎　智芳、白鳥　貴子、亀石　正人、久保　幸子　【兵　庫】柿木　國夫、新坂　智子　【岡　山】小林　恭大、小林　明友美　【広　島】両徳　良樹　【佐　賀】高橋　里江　【熊　本】上野　信行

【10月の行事予定】

【会　議】

10月２日㈭　全国理事長会（大分）

10月11日㈯　常務理事会（東京）

【大　会】

10月３日㈮～７日㈫

第63回国民体育大会（大分市）

HANDBALL CONTENTS Oct.

体育教師としての感性をさます…………佐藤　靖　1

第59回全国高校選手権大会

総　評……………………………………宮澤則夫　2

男子優勝校……………長崎日大高校・谷山　理　3

女子優勝校………………洛北高校・乾　彩友美　4

戦　評…………………………………………………5

男子の部 結果　………………………………………6

女子の部 結果　………………………………………7

速報：北京オリンピック大会成績……………………8

第49回全日本実業団選手権大会

大会を振り返って…………………………原田孝幸　10

第16回世界女子ジュニア選手権…………荘林康次　12

フリースロー：日本の「武器」は？……早川文司　15

第11回男子ジュニアアジア選手権……高田日呂美　16

第２回世界女子ユース選手権…………………………18

第３回男子ユースアジア選手権………………………20

第11回ハンドボール研究集会実施報告………………22

協会だより………………………………………………24

スコアールーム…………………………………………26

「10万人会」８月会員／10月の行事予定／もくじ…28

（登録チームの購読料は登録料に含む）

asics
sound mind, sound body

JAPAN、名品の系譜。

機能だけではない、風格のようなものがなければならぬ。
先端のテクノロジーでさらにパワーアップした機能を備えて
新しくなったスカイハンドJAPANシリーズ。
グリップ力に優れた国産ラバー採用のJAPANラバーソールと、
しなやかで通気性のあるエクセーヌを使ったカラーアッパーに
ソール前足部のベンチレーションホール等々。
インドアを制するミドルカットとローカットが揃った。

足入れ感を高めてクラシカルな名品復刻モデル。

スカイハンド® JAPAN-MT
THH514 ¥16,800(本体¥16,000)
● カラー：5093 ネイビーブルー×シルバー
● サイズ：23.0〜29.0cm



名品スカイハンドSPのフォルムを受け継いだローカットモデル。

スカイハンド® JAPAN-S
THH515 ¥15,750(本体¥15,000)
● カラー：2300 レッド×パールホワイト
5093 ネイビーブルー×シルバー
● サイズ：23.0〜29.0cm



JOC オフィシャルパートナー

株式会社アシックス



(財)日本ハンドボール協会編『ハンドボール』第四九四号

昭和四十年六月七日 第三種郵便物認可

平成二十年九月二十六日印刷 平成二十年十月一日発行

東京都渋谷区神南一—一—一 電話 代表〇三—三四八一—二三六一 振替 〇一二〇—七—一〇二九三

編集兼発行人 川上憲太

定価 年間三三〇〇円